

2024年3月期 決算説明会資料

2024年5月21日



目次

1

2024年3月期 決算概要

2

2025年3月期 通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョンを通じた資本効率向上への取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料

目次

1

2024年3月期 決算概要

2

2025年3月期 通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョンを通じた資本効率向上への取り組み

5

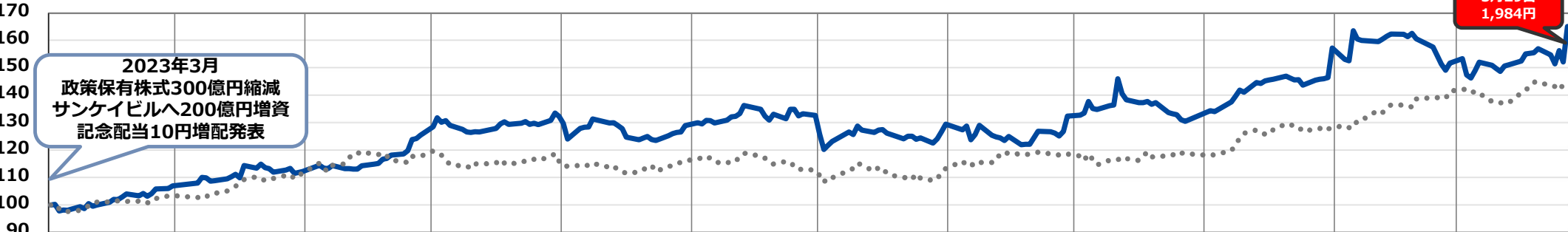
サステナビリティの取り組み

6

参考資料

2024年3月期の動き

1. 2024年3月期 決算概要
連結



—— フジ・メディア・ホールディングス 日経平均 2023年4月3日(月)の株価を100として推移を示しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
FMH		・中期グループビジョン発表 ・自己株式取得100億円発表 ・自己株式12.6億円(93.5万株)取得	・経営諮問委員会設置・開催 ・自己株式9.1億円(67.1万株)累計: 21.8億円・160.6万株取得	・自己株式7.0億円(45.4万株)累計: 28.8億円・206.1万株取得	・第1四半期決算発表 ・自己株式13.4億円(88.2万株)累計: 42.2億円・294.3万株取得	・自己株式6.2億円(39.4万株)累計: 48.5億円・333.7万株取得	・自己株式10.5億円(70.0万株)累計: 59.1億円・403.7万株取得	・自己株式9.4億円(63.4万株)累計: 68.6億円・467.2万株取得	・第7回無担保社債200億円発行 ・自己株式9.7億円(58.7万株)累計: 78.3億円・526.0万株取得	・自己株式6.7億円(38.8万株)累計: 85.0億円・564.8万株取得	・自己株式14.9億円(78.6万株)累計: 99.9億円・643.5万株取得	・2024年度自己株式取得150億円実施発表 ・「統合報告書」発行 ・政策保有株式当期累計185億円売却
メディア・コンテンツ	・フジテレビ映画「東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編・運命」公開 ・ニッポン放送「Smile&Green やつと会えたねニッポン放送ラジオパークin 日比谷2023」開催	・フジテレビ特番『THE SECOND 血のハロウィン編・決戦』放送 ・「アレグリア 新たな光」来場者52万人で東京公演終了 スマホ・テレビアプリ「FOD」累計3,000万DL突破	・フジテレビ映画「東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編・決戦」公開 「アレグリア 新たな光」来場者52万人で東京公演終了 スマホ・テレビアプリ「FOD」累計3,000万DL突破	・フジテレビ「FNS27時間テレビ」放送4年ぶりに復活、7年ぶりの生放送 「お台場冒険王」開幕 「アレグリア 新たな光」大阪公演開始	・扶桑社、ビーエスフジ、ポニーキャニオン等「地域活性化の取扱説明書」発行 ・「お台場冒険王」開幕 「アレグリア 新たな光」大阪公演開始	・フジテレビ特番「FIVBバレー五輪予選ワールドカップバレー2023」放送 映画「ミステリと言う勿れ」公開 米国エンタメ企業「スカイバウンド社」とパートナーシップ構築 中国「bilibili社」とパートナーシップ構築	・フジテレビ韓国「ZEPETO」とパートナーシップ締結 ・ニッポン放送オールナイトニッポンのサブスクアプリ「オールナイトニッポンJAM」累計10万DL突破 ・ポニーキャニオン千葉県長生村とシティブロモーション、移住プロモーション、観光振興等に関し包括連携協定を締結	・フジテレビSpotifyとパートナーシップ締結 映画「翔んで埼玉へ琵琶湖より愛をこめて」公開 ・ポニーキャニオン千葉県長生村とシティブロモーション、移住プロモーション、観光振興等に関し包括連携協定を締結	・ニッポン放送日本語音声が多言語に変換できるツール「リングイネ!」J版を開発	・グレイブインバウンド向けウェブメディア「Umami bites」をローンチ	・フジテレビ「めざましテレビ」がお届けする新エンタメニュースサイト『めざましmedia』をローンチ	・フジテレビポニーキャニオンDINOS「健康経営優良法人2024(大規模法人部門)」に認定
都市開発・観光	・サンケイビル賃貸レジデンス「ルフォンプログレ浅草テラス」 「ルフォンプログレ浅草田原町」に決定 竣工 「(仮称)長岡京市物流計画」 開発着手 「S-GATE FIT 日本橋馬喰町」 竣工	・グランピスタ新水族館の名称が「神戸須磨シーワールド」に決定 ・サンケイビル「足立入谷物流施設」竣工	・サンケイビル「(仮称)台東二丁目賃貸レジデンス計画」 開発着手 賃貸レジデンス「ルフォンプログレ大森山王」 竣工	・サンケイビル新築分譲マンション「(仮称)板橋本町計画」 開発着手 「SANKEILOGI府中」 開発着手 「S-GATE FIT 天神南」 竣工 本町サンケイビル「照明施設賞」を受賞	・サンケイビル賃貸レジデンス「(仮称)江東区永代一丁目賃貸レジデンス計画」 開発着手 「ダブルツリー by ヒルトン 京都東山」 開業	・サンケイビル新築分譲マンション「ルフォン松戸北小金」 竣工 サステナビリティ・リンク・ローン7~9月総額551億円の実行 「須磨海浜公園」一部園地先行オープン		・サンケイビル物流施設「MCUD 南吹田」竣工 新築分譲マンション「ルフォン上野松が谷」 VRモデルルームオープン	・サンケイビル物流施設「川越市物流施設」取得 日本初のホテルコンドミニアム・ホテルレジデンス「BLISSITA(ブリスティア)箱根仙石原」竣工		・サンケイビル賃貸レジデンス「ルフォンプログレ押上EAST」 竣工 「ルフォンプログレ増設本町タワーレジデンス」 竣工 「ルフォンプログレ西大井プレミア」 竣工 学生レジデンス第1号物件「ルフォンエチュード金町」 竣工	

事業・業績概要

1. 2024年3月期 決算概要
連結

前期比：増収営業増益 計画比：セグメント間の入り繰り等はあったが、増収営業増益

メディア・コンテンツ事業 増収減益

「配信」と「コンテンツ」ビジネスが好調

フジテレビの配信広告、イベント、デジタル、MDやポニーキャニオンの配信、クオラスのイベント等が好調、一方でフジテレビの放送収入やDINOSのリビング系が苦戦しセグメント全体で増収ながら減益

■フジテレビ：増収減益

□放送・メディア：減収粗利益減益

- ・タイム：レギュラー減収、単発はサッカーW杯の反動で減収
- ・スポット：上期の広告市況の軟調等で減収
- ・配信広告：年間・年度共に2年連続AVOD三冠、大幅増収
- ・番組費：効率の良い運用やサッカーW杯の反動で減少

□コンテンツ・ビジネス：増収粗利益増益

- ・イベント・MD：「アレグリア」貢献
- ・デジタル：FOD有料会員の増加継続で増収

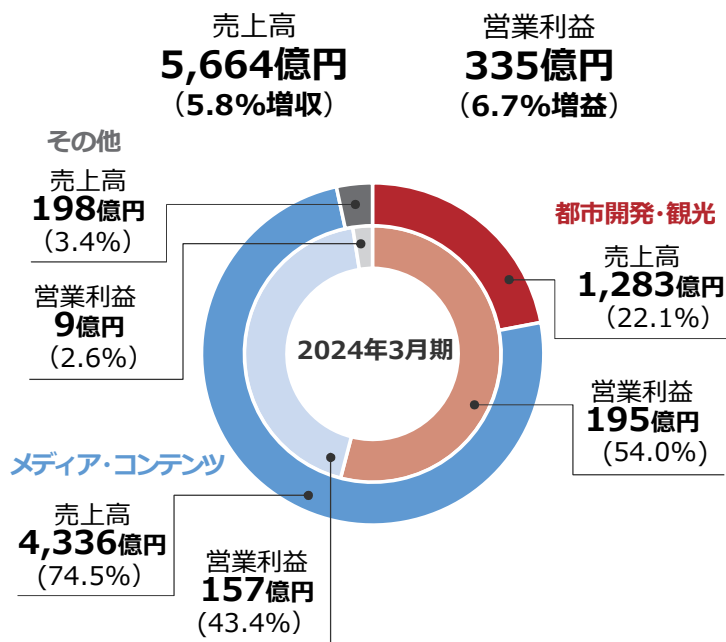
■各社：おおむね好調

- ビーエスフジ：広告収入が引き続き好調
- ポニーキャニオン：配信、イベント、グッズ等好調
- クオラス：OOH、クリエイティブ、イベント関連等好調
- DINOS：リビング等苦戦、販促費用見直すも補えず

2023年度の
資本収益性の
向上策の
取り組み実績

政策保有株式：185億円売却、投下資本の18.1%に
株主還元：自己株式取得100億円実施、普通配当8円増配
成長投資：1,103億円実施（設備投資）

連結 増収増益



都市開発・観光事業 増収増益

サンケイビル、グランビスタ共に好調

サンケイビルは多様なアセットの賃貸、販売・売却が好調で過去最高益、グランビスタは旅行需要の回復を受けホテル事業を中心に好調で、コロナ以前（2019年度）の売上高を上回りセグメント全体で増収増益

■サンケイビル：増収増益

東京・大阪を中心に中規模のレジデンス、オフィス、ホテル、物流施設等の多様なアセットを開発賃貸、販売・売却のいずれも好調
REITとの物件入れ替えも奏功 過去最高益

■グランビスタ ホテル&リゾート：増収増益

コロナ以前（2019年度）を上回る売上高
ホテル事業が大幅に増収、札幌の2ホテル、「インターゲート」の5か所のホテル等で国内観光需要やインバウンドを取り込み
海洋レジャーも堅調、「神戸須磨シーワールド」の6月の開業準備も順調

2024年度
見込み

中期グループビジョン2年目 増収増益見込み
株主還元：自己株式取得を前年に続き実施
（150億円：前年比+50億円（3月28日発表済））
普通配当2円増配
成長投資：800億円を計画（設備投資）

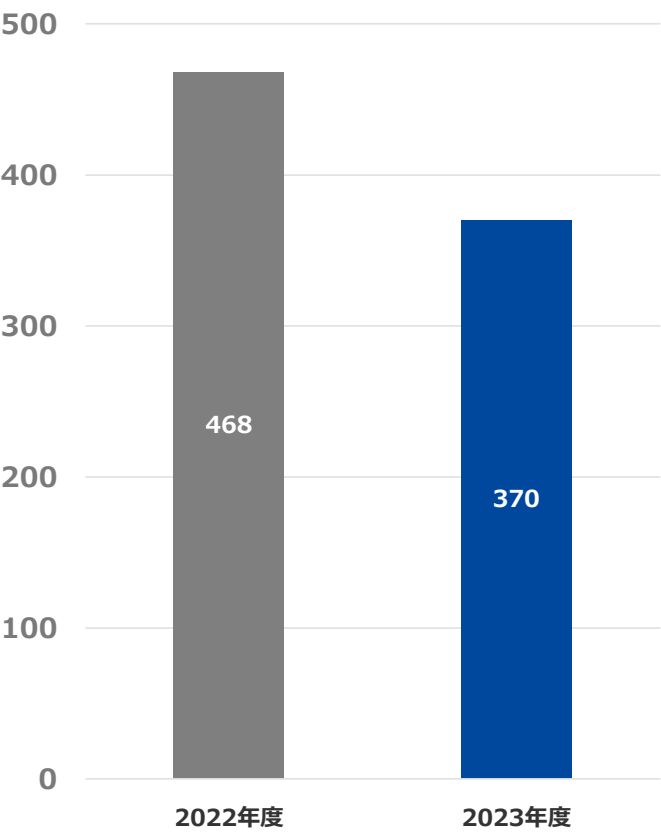
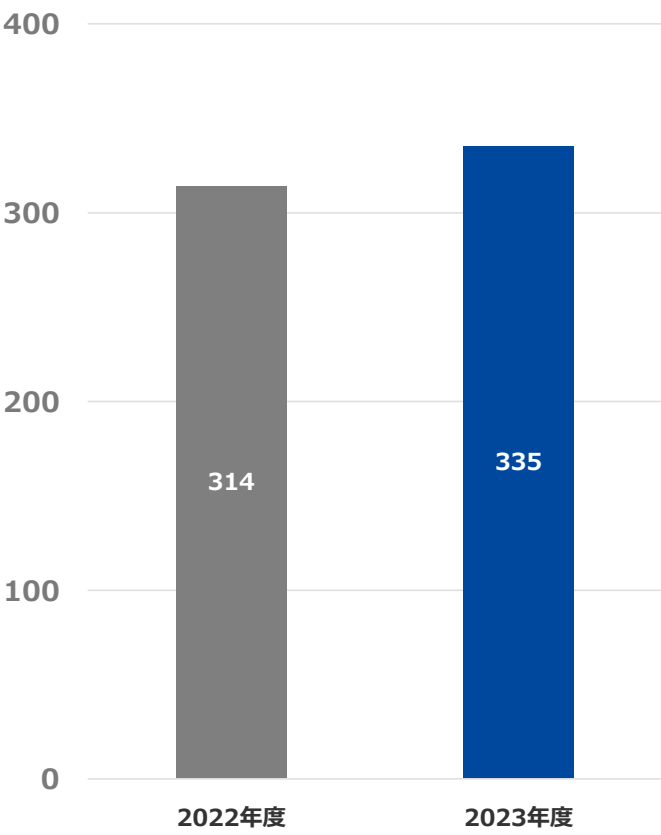
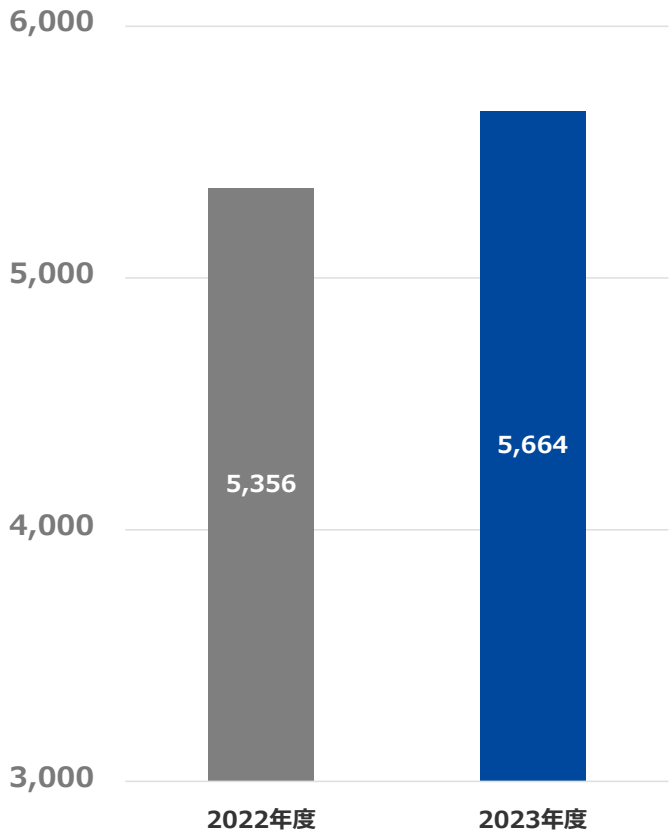
連結 ポイント

連結売上高：5.8%増収

連結営業利益：6.7%増益

親会社株主に帰属する
当期純利益：20.9%減益

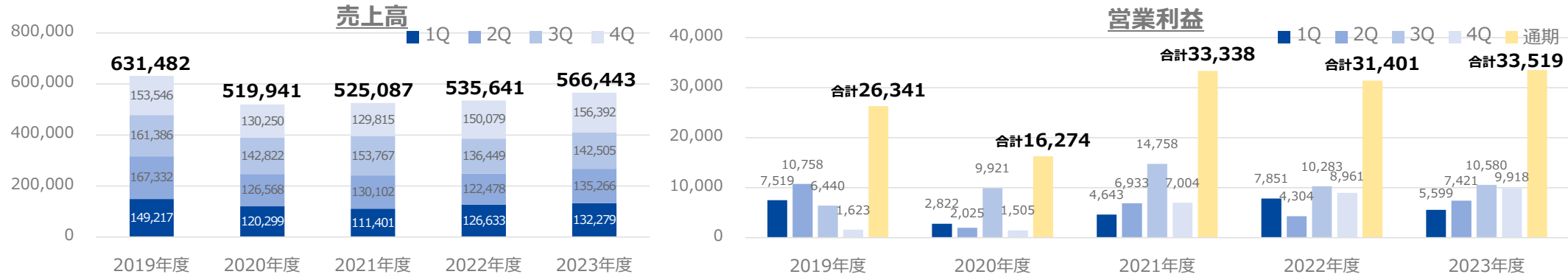
(単位：億円)



連結 決算概要

(単位：百万円)

	2022年度 累計	2023年度 累計	対前期増減		通期 業績予想 (24/3/28)	対通期予想 達成率	
売上高	535,641	566,443	30,801	5.8%	557,700	8,743	101.6%
営業利益	31,401	33,519	2,118	6.7%	32,000	1,519	104.7%
経常利益	39,053	39,173	120	0.3%	39,300	▲126	99.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	46,855	37,082	▲9,772	▲20.9%	36,000	1,082	103.0%



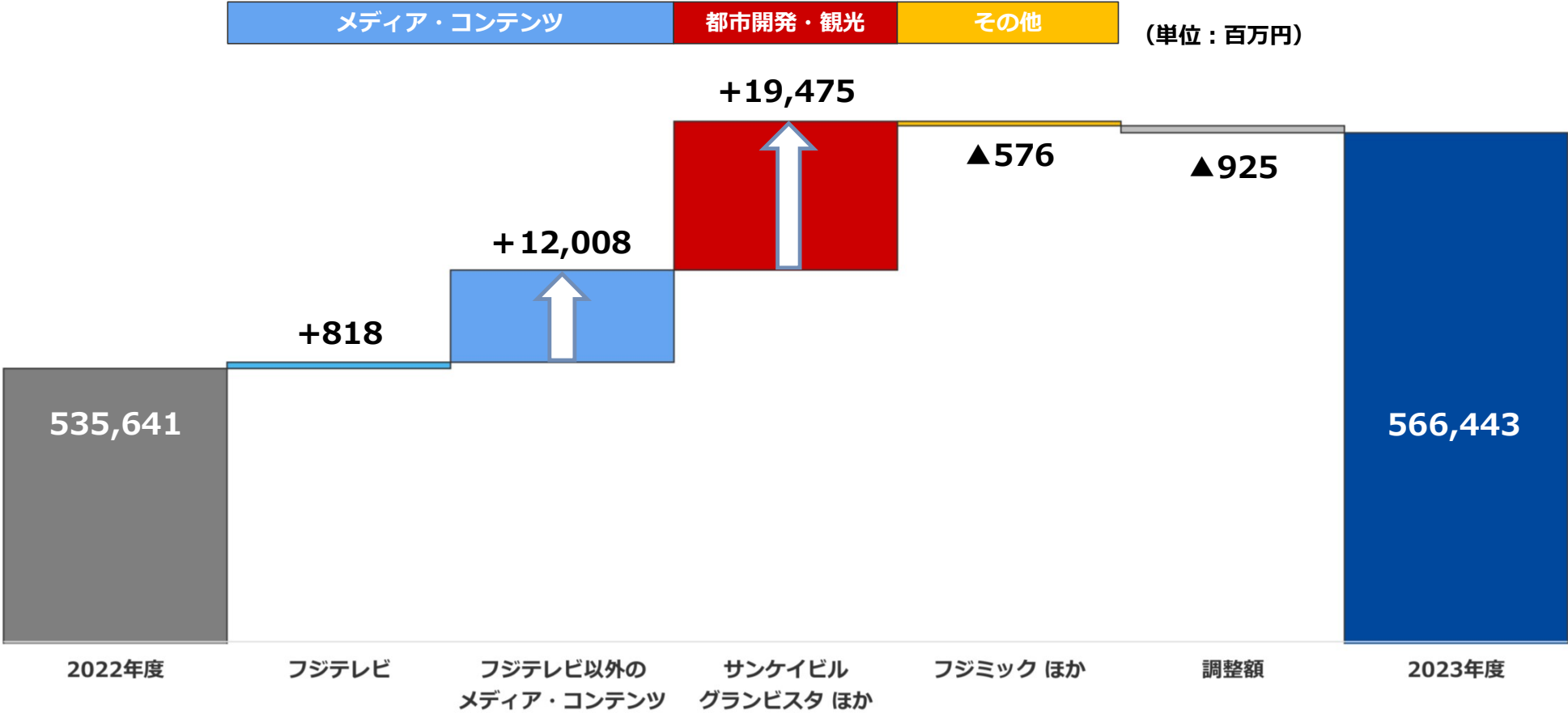
セグメント別 売上高及び営業利益

1. 2024年3月期 決算概要
連結

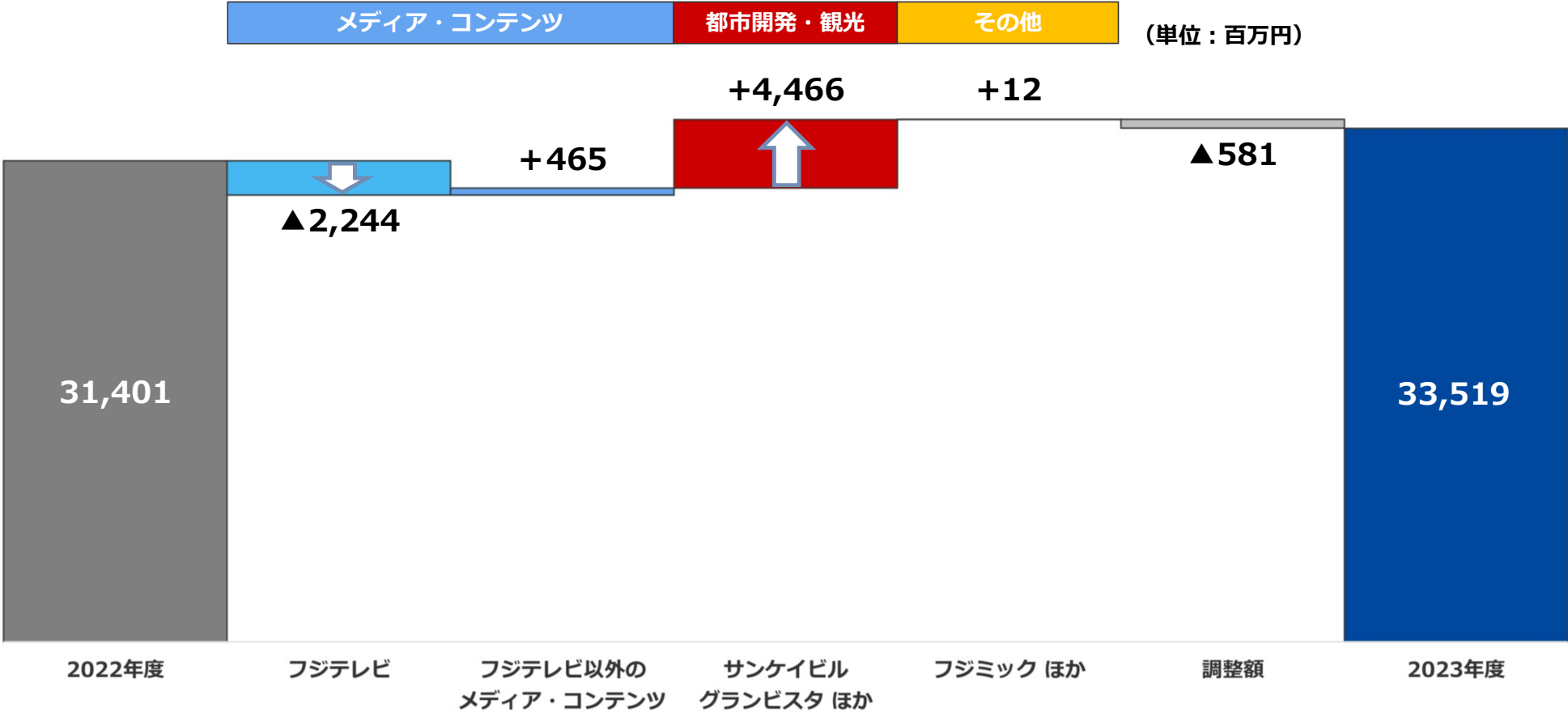
(単位：百万円)

	事業セグメント				計	調 整 額	連 結 損 益 計 算 上 書 額
		メ デ ィ ア ・ コ ン テ ン ツ 事 業	都 市 開 発 ・ 観 光 業	そ の 他 業			
売上高	2023年度累計	433,663	128,316	19,818	581,799	▲15,355	566,443
	2022年度累計	420,836	108,841	20,394	550,072	▲14,430	535,641
	増 減	12,827	19,475	▲576	31,727	▲925	30,801
	増減 (%)	3.0%	17.9%	▲2.8%	5.8%	—	5.8%
営業利益	2023年度累計	15,706	19,537	944	36,187	▲2,667	33,519
	2022年度累計	17,484	15,070	931	33,487	▲2,086	31,401
	増 減	▲1,778	4,466	12	2,700	▲581	2,118
	増減 (%)	▲10.2%	29.6%	1.3%	8.1%	—	6.7%
営業 利益率	2023年度累計	3.6%	15.2%	4.8%	6.2%	—	5.9%
	2022年度累計	4.2%	13.8%	4.6%	6.1%	—	5.9%

セグメント別 売上高と増減要因



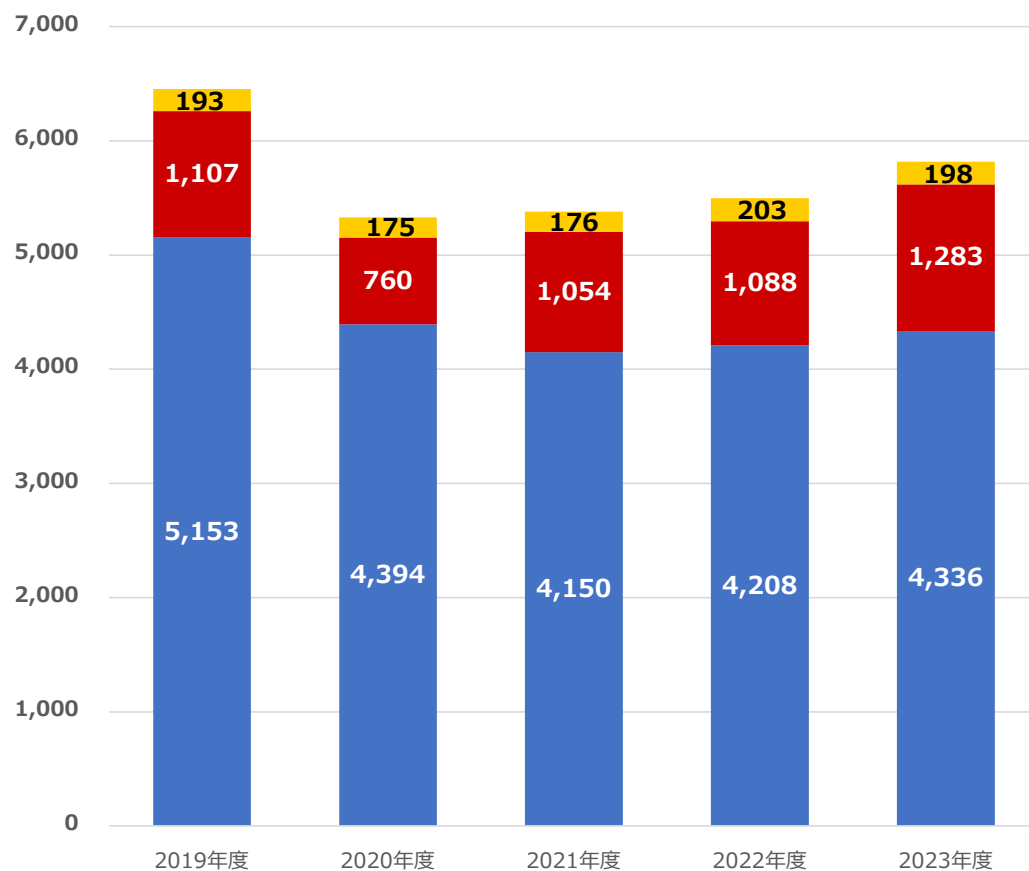
セグメント別 営業利益と増減要因



セグメント別 売上高・営業利益推移

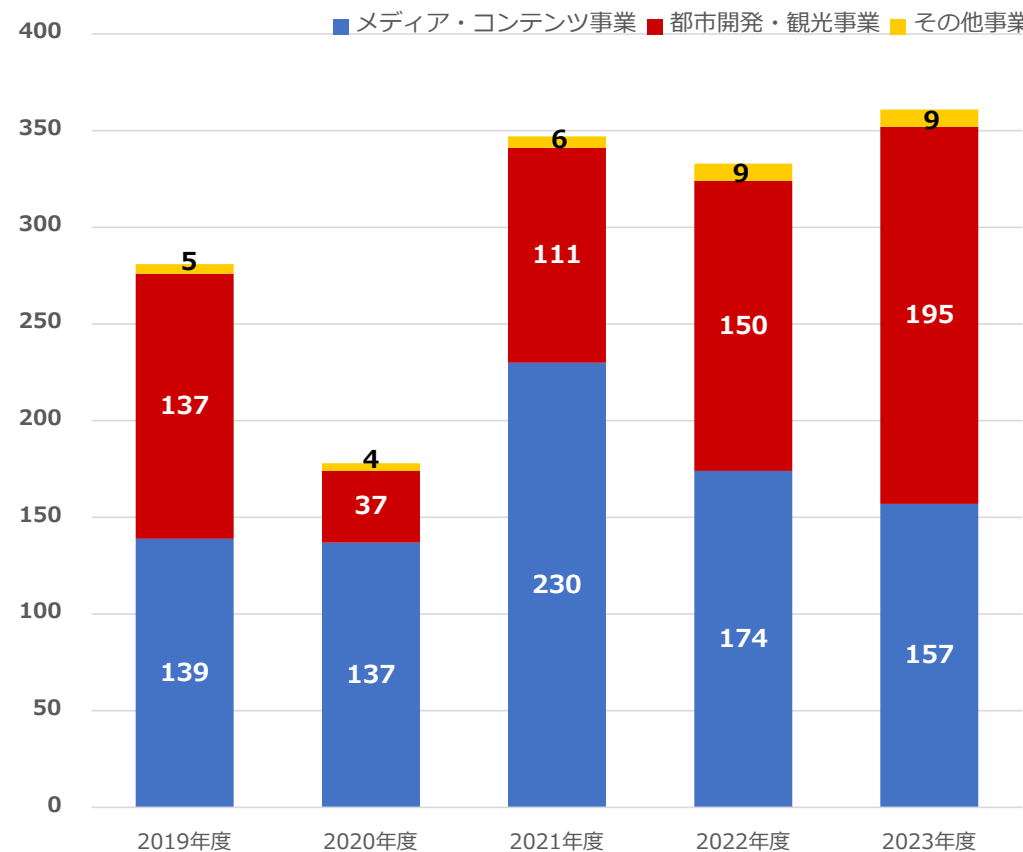
1. 2024年3月期 決算概要
連結

売上高



営業利益

(単位：億円)



連結 営業外収益・費用の主な内容

持分法投資利益の減少は、関連会社における構造改革による費用計上等のため

(単位：百万円)

	2022年度 累計	2023年度 累計	対前期増減	
営業外収益				
受取利息	206	884	678	327.8%
受取配当金	3,745	3,895	149	4.0%
持分法による投資利益	3,510	1,378	▲2,132	▲60.7%
負ののれん償却額	573	573	0	0.0%
投資事業組合運用益	460	533	72	15.8%
その他	1,262	1,256	▲6	▲0.5%
営業外収益合計	9,760	8,521	▲1,238	▲12.7%
営業外費用				
支払利息	1,478	1,875	396	26.8%
投資事業組合運用損	224	97	▲126	▲56.3%
その他	405	894	489	120.9%
営業外費用合計	2,107	2,868	760	36.1%

連結 特別利益・損失の主な内容

特別利益の減少は、前年度の退職給付信託設定益の反動減

(単位：百万円)

	2022年度 累計	2023年度 累計	対前期増減	
特 別 利 益				
投資有価証券売却益	16,337	17,256	918	5.6%
退職給付信託設定益	10,079	—	▲10,079	▲100.0%
その他の	86	17	▲69	▲80.3%
特 別 利 益 合 計	26,503	17,273	▲9,230	▲34.8%
特 別 損 失				
減 損 損 失	135	514	379	281.0%
固定資産除却損	181	660	478	263.6%
投資有価証券評価損	221	482	261	117.7%
その他の	276	387	111	40.1%
特 別 損 失 合 計	815	2,045	1,230	150.9%

連結 貸借対照表

1. 2024年3月期 決算概要
連結

(単位：百万円)

	2022年度末	2023年度末	前期末比 増減		2022年度末	2023年度末	前期末比 増減
流 動 資 産	414,797	404,938	▲9,859	流 動 負 債	174,898	152,437	▲22,460
				固 定 負 債	358,978	426,766	67,787
固 定 資 産	967,849	1,043,894	76,045	負 債 合 計	533,877	579,204	45,327
				純 資 産 合 計	848,769	869,628	20,858
資 産 合 計	1,382,646	1,448,833	66,186	負債・純資産合計	1,382,646	1,448,833	66,186

セグメント別 資産等

(単位：百万円)

		事業セグメント			合計	調整額	連結財務諸表計上額
		メディア・コンテンツ事業	都市開発・観光事業	その他事業			
営業利益	2023年度累計	15,706	19,537	944	36,187	▲2,667	33,519
	2022年度累計	17,484	15,070	931	33,487	▲ 2,086	31,401
	増 減	▲1,778	4,466	12	2,700	▲581	2,118
	増減 (%)	▲10.2%	29.6%	1.3%	8.1%	-	6.7%
資産	2023年度末	528,273	572,395	22,930	1,123,599	325,233	1,448,833
	2022年度末	520,587	519,904	22,876	1,063,367	319,278	1,382,646
	増 減	7,686	52,490	53	60,231	5,954	66,186
	増減 (%)	1.5%	10.1%	0.2%	5.7%	-	4.8%
総資産 営業利益率	2023年度	3.0%	3.6%	4.1%	3.3%	-	2.4%
	2022年度	3.4%	3.0%	4.2%	3.2%	-	2.3%

メディア・コンテンツ事業 決算のポイント

※フジテレビの決算のポイントはP.18をご参照ください

1. 2024年3月期 決算概要
メディア・コンテンツ

ビーエスフジ

増収増益

放送収入増収
費用コントロールも奏功し増益へ

放送収入が堅調
タイムはレギュラー、通販堅調
効率的な番組費等の運用も寄与
営業利益は過去最高

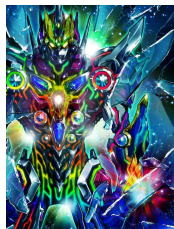


ポニーキャニオン

増収増益

配信、グッズ、イベント、
番組販売等が牽引し増収

イベント等での費用増を
増収でカバーし増益
売上の8割超が
ノンパッケージに



「SSSS.GRIDMAN」
©円谷プロ ©2023 TRIGGER・雨宮哲/
「劇場版グリッドマンユニバース」製作委員会

ニッポン放送

増収増益

スポット増収
番組関連イベントや物販が好調

スポットは4Qに
大型出稿もあり増収
イベントは番組連動の興行・物販収入が好調
配信PF向けのコンテンツ販売も引き続き堅調
6期連続で営業増益



DINOS CORPORATION

減収営業損失

消費動向の変化で
カタログ・テレビ通販
の売上高減少

ファッションと食品は前年超えも
カタログでのリビング系等が苦戦
カタログの発行部数の見直し等
販促費用効率化に努めるも
減収を補うには至らず



フジクリエイティブコーポレーション

増収増益



国内番販が好調
制作はドラマ、バラエティ
イベント等あり増収増益

国内番販は午後帯向けの販売が好調
制作はバラエティのレギュラーに加え
イベント、連続ドラマ等あり増収

フジパシフィックミュージック

増収増益

配信の伸びにより著作権使用料収入が好調

大ヒットドラマや映画の楽曲配信等が貢献
著作権使用料収入好調
売上・営業利益ともに過去最高

クオラス

増収増益

OOH、インターネット広告が前年超え
クリエイティブやプランニング、
イベント関連ビジネスも引き続き好調

メディア・コンテンツ事業 会社別概要

1. 2024年3月期 決算概要
メディア・コンテンツ

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率		
	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比	2022年度 累計	2023年度 累計	増減
フジテレビジョン	237,400	238,219	818 (0.3%)	7,677	5,433	▲2,244 (▲29.2%)	3.2%	2.3%	▲0.9%
ビーエスフジ	15,446	16,255	809 (5.2%)	2,753	3,162	408 (14.8%)	17.8%	19.5%	1.7%
ニッポン放送	13,818	16,431	2,612 (18.9%)	553	645	91 (16.6%)	4.0%	3.9%	▲0.1%
フジクリエイティブ コーポレーション	14,575	15,000	425 (2.9%)	1,049	1,084	34 (3.3%)	7.2%	7.2%	0.0%
共同テレビジョン	13,371	14,955	1,583 (11.8%)	304	388	84 (27.7%)	2.3%	2.6%	0.3%

メディア・コンテンツ事業 会社別概要

1. 2024年3月期 決算概要
メディア・コンテンツ

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率		
	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比	2022年度 累計	2023年度 累計	増減
ポニーキャニオン	33,579	37,932	4,353 (13.0%)	1,217	1,504	287 (23.6%)	3.6%	4.0%	0.4%
フジパシフィック ミュージック	10,682	12,411	1,728 (16.2%)	982	1,235	252 (25.8%)	9.2%	10.0%	0.8%
D I N O S CORPORATION	59,268	51,474	▲7,794 (▲13.2%)	60	▲775	▲836 (-)	0.1%	▲1.5%	▲1.6%
クオラス※	23,675	32,757	9,081 (38.4%)	1,087	1,862	774 (71.2%)	4.6%	5.7%	1.1%
その他及び セグメント内修正 等	▲983	▲1,773	-	1,798	1,165	-	-	-	-

※クオラスの広告出稿の実取扱高を含めた売上高は前期48,599百万円、当期57,381百万円です。

フジテレビ 決算のポイント

1. 2024年3月期 決算概要
フジテレビ

ポイント

放送・メディア : 放送収入は減収 配信広告収入は大幅増収
コンテンツ・ビジネス : 粗利益が大幅増益 映画は収支に貢献、イベント、デジタル、MD、アニメ開発等が増収
番組制作費 : 効率的に運用し減少、単発は前年度のサッカーW杯の反動減

放送・メディア

放送収入：減収

- **タイム**
レギュラー減収、単発はサッカーW杯等の反動減
- **スポット**
上期の広告市況の軟調等あり減収
交通・レジャー・観光、不動産・住宅設備は通年好調
アルコールは酒税改正等あり、2Q以降前年越え続く

その他放送・メディア収入：増収

- **配信広告**
前期比+61.6%と大きく成長
多岐にわたる業種や規模の広告主からのニーズが高まり、出稿好調
年間、年度共に2年連続AVOD三冠（再生数、ユニークブラウザ数、視聴時間）
ドラマはレギュラー、アーカイブ共に利用増を牽引
新たに配信を開始した音楽特番等が、若年層を中心に利用拡大に貢献

コンテンツ・ビジネス

映画：引き続き好調

- 劇場公開や配信権収入等で収支に貢献
- **劇場公開** ※数字は興行収入
2023年の邦画実写ランキング上位作多数
「東京リベンジャーズ2」
前編27.1億円・後編23.4億円
「ミステリと言う勿れ」48.0億円
「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」
23億円超
 - **二次利用**
配信権販売好調



イベント：増収

- **「アレグリア-新たなる光-」**
2023年2月から10月に、東京・大阪で開催
総来場者84.7万人と大盛況
- **「モネ展」**
モネ作品のみ60点を展示
46.4万人来場



MD：増収

- **物販**
イベント関連の物販、アニメ配分金収入が好調

デジタル：増収

- **FOD**
有料会員増加基調継続
TVer無料配信からの流入等あり

アニメ開発：増収

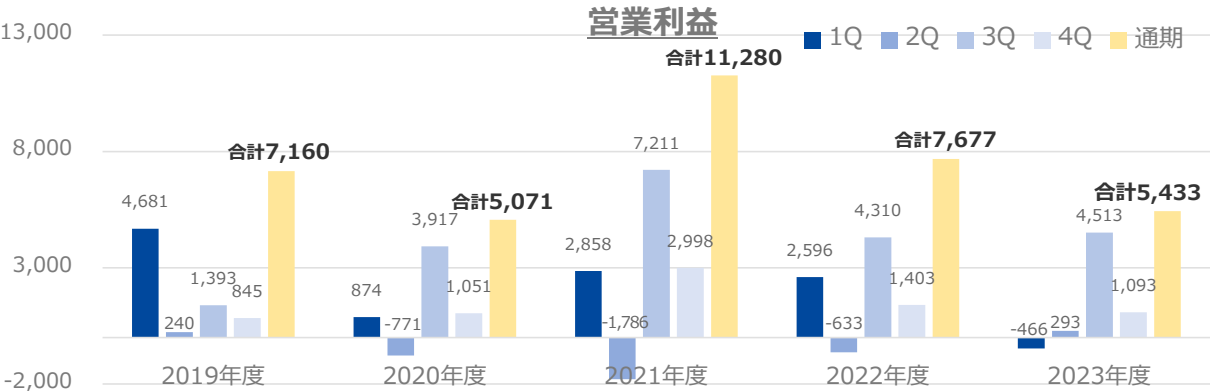
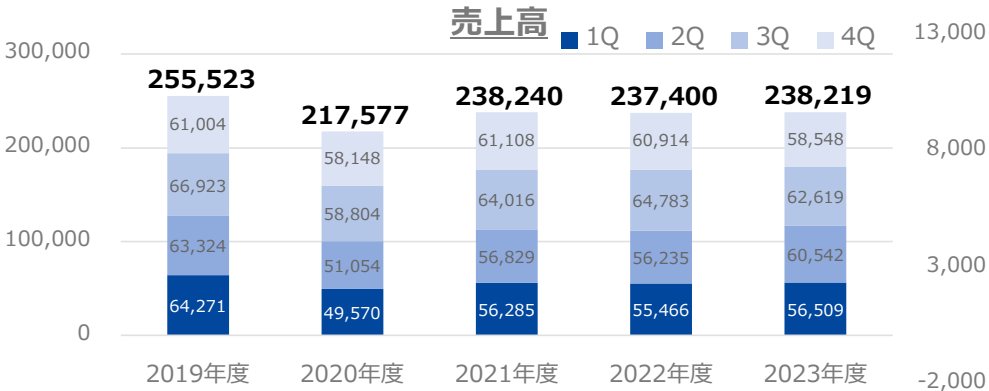
- **配分金・MD**
人気アニメ関連等をはじめ好調
- **番販・配信**
「王様ランキング」の海外向け等堅調

フジテレビ 決算概要

1. 2024年3月期 決算概要
フジテレビ

(単位：百万円)

	2022年度 累計	2023年度 累計	対前期増減	
売上高	237,400	238,219	818	0.3%
営業利益	7,677	5,433	▲2,244	▲29.2%
経常利益	7,959	5,624	▲2,335	▲29.3%
当期純利益	5,726	3,660	▲2,065	▲36.1%



内訳別の収入及び粗利益

(単位：百万円)

	内訳			計
		放 送 ・ メ デ ィ ア	コ ン テ ン ツ ・ ビ ジ ネ ス	
収 入	2023年度累計	183,490	54,728	238,219
	2022年度累計	194,279	43,120	237,400
	増 減	▲10,789	11,607	818
	増減 (%)	▲5.6%	26.9%	0.3%
粗 利 益	2023年度累計	48,518	15,450	63,968
	2022年度累計	55,607	11,684	67,292
	増 減	▲7,088	3,765	▲3,323
	増減 (%)	▲12.7%	32.2%	▲4.9%
粗 利 益 率	2023年度累計	26.4%	28.2%	26.9%
	2022年度累計	28.6%	27.1%	28.3%

販管費及び営業外損益概要

(単位：百万円)

	2022年度 累計	2023年度 累計	対前期増減	
販売費及び 一般管理費	59,614	58,535	▲1,079	▲1.8%
販売費	42,493	41,901	▲592	▲1.4%
一般管理費	17,120	16,634	▲486	▲2.8%
営業費用合計	229,723	232,785	3,062	1.3%
営業利益	7,677	5,433	▲2,244	▲29.2%
営業外収益	468	544	76	16.3%
営業外費用	186	353	167	90.0%
経常利益	7,959	5,624	▲2,335	▲29.3%

放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 累計	2023年度 累計	対前期増減	
放 送 ・ メ デ ィ ア 収 入	194,279	183,490	▲10,789	▲5.6%
放送収入	160,381	147,348	▲13,032	▲8.1%
ネットタイム	69,253	63,551	▲5,701	▲8.2%
ローカルタイム	10,621	10,135	▲486	▲4.6%
スポット	80,506	73,662	▲6,844	▲8.5%
その他の放送・メディア収入	33,898	36,141	2,242	6.6%
配信広告	4,866	7,866	2,999	61.6%
番組販売	15,573	15,229	▲343	▲2.2%
CS放送・その他	13,458	13,045	▲413	▲3.1%
放 送 ・ メ デ ィ ア 原 価	138,672	134,972	▲3,700	▲2.7%
放 送 ・ メ デ ィ ア 粗 利 益	55,607	48,518	▲7,088	▲12.7%

スポット収入 業種別動向

「交通・レジャー・観光」「不動産・住宅設備」は通年好調
「アルコール」は酒税改正等により、2Q以降前年超え続く
「食品」「化粧品・トイレタリー」は3Q以降回復基調

業種	2022年度 シェア	2023年度 シェア	対前期増減
情報・通信・放送	15.6%	14.2%	▲16.4%
化粧品・トイレタリー	9.7%	10.5%	▲0.5%
外食・各種サービス	9.1%	9.6%	▲3.7%
食品	7.7%	8.3%	▲2.2%
非アルコール飲料	6.2%	6.4%	▲4.4%
交通・レジャー・観光	4.6%	6.4%	27.6%
金融・保険	6.3%	6.1%	▲11.9%
医薬品・医療用品	5.0%	5.1%	▲7.3%
アルコール飲料	3.3%	4.7%	31.8%

(2023年4月～2024年3月) ※管理ベース

業種	2022年度 シェア	2023年度 シェア	対前期増減
出版・エンタテインメント	5.0%	4.4%	▲19.0%
自動車・関連品	4.3%	4.3%	▲7.3%
流通・小売業	3.8%	3.9%	▲6.0%
不動産・住宅設備	3.5%	3.8%	0.9%
事務・精密・光学機器	4.3%	3.6%	▲23.5%
衣料・身回品・雑貨	3.9%	2.6%	▲40.0%
家電・AV機器	2.1%	1.8%	▲22.5%
電話サービス	1.7%	1.6%	▲12.7%
エネルギー・機械	0.9%	0.8%	▲18.1%
その他	3.0%	2.0%	▲41.3%

番組制作費

効率的な運用により前年より減少 単発は前年の「サッカーW杯」の反動減あり

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	対前期増減	
第1四半期	15,742	17,000	1,257	7.9%
第2四半期	17,753	17,320	▲432	▲2.4%
上期	33,496	34,321	824	2.5%
第3四半期	20,544	17,151	▲3,392	▲16.5%
第4四半期	18,076	16,785	▲1,291	▲7.1%
下期	38,621	33,936	▲4,684	▲12.1%
通期	72,117	68,258	▲3,859	▲5.4%

※自社制作番組及び購入番組の直接費

コンテンツ・ビジネス 収入と原価

1. 2024年3月期 決算概要
フジテレビ
コンテンツ・ビジネス

(単位：百万円)

	2022年度 累計	2023年度 累計	対前期増減	
コンテンツ・ビジネス収入	43,120	54,728	11,607	26.9%
催物事業収入	6,213	13,750	7,537	121.3%
映画事業収入	11,645	9,756	▲1,889	▲16.2%
デジタル事業収入	12,829	15,080	2,251	17.5%
MD事業収入	4,091	5,820	1,728	42.2%
アニメ開発事業収入	2,460	3,980	1,520	61.8%
ビデオ事業収入	1,123	1,583	459	40.9%
その他の収入	4,756	4,756	▲0	▲0.0%
コンテンツ・ビジネス原価	31,436	39,278	7,842	24.9%
コンテンツ・ビジネス粗利益	11,684	15,450	3,765	32.2%

配信関連 配信広告とデジタル事業

1. 2024年3月期 決算概要
フジテレビ

3種類の 配信関連 ビジネス

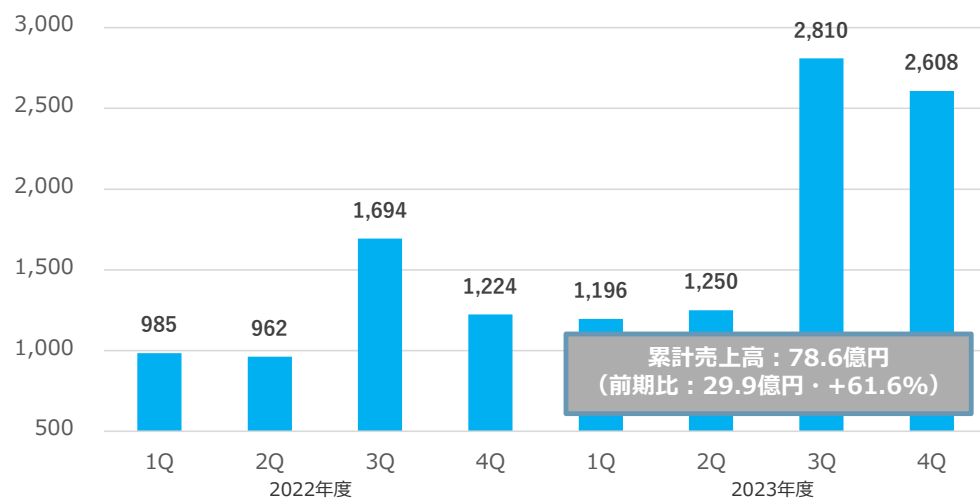
- ①**配信広告** : 「TVer」等を通じたAVOD
- ②**デジタル事業** : 「FOD」のSVOD、「FNNプライムオンライン」「めざましmedia」、コンテンツ販売
- ③**その他** : 「映画事業」や「アニメ開発事業」等によるコンテンツ販売

実績

- ①と② : 合計で早期に年間売上高200億円の目標を2023年度に超え、累計で229.4億円を達成
- ① : 年間、年度の両方で2年連続でAVOD三冠（再生数、ユニークブラウザ数、視聴時間） ユーザー、広告主ともに認知拡大
- ③ : ライブラリーを含めた多数の作品の販売が貢献

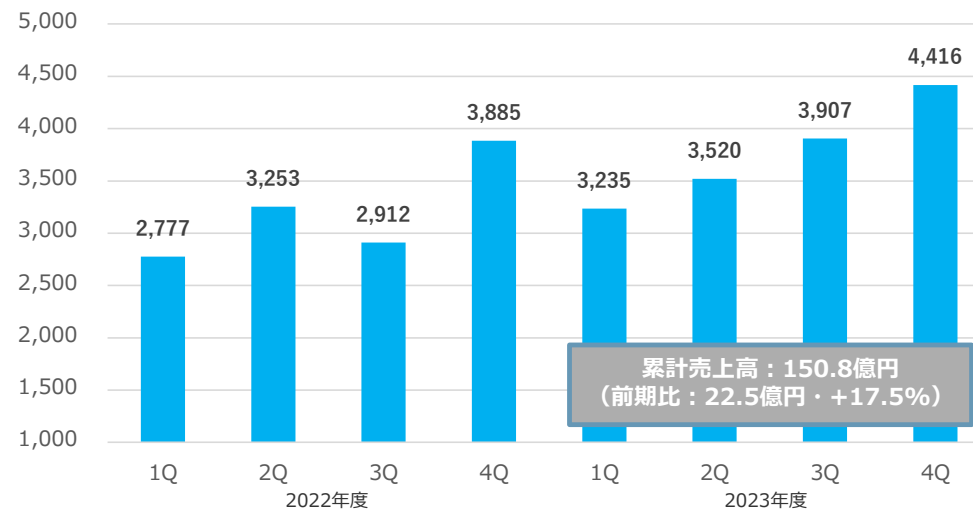
(単位: 百万円)

配信広告売上高



ドラマを中心にアーカイブ作品の戦略的な活用もありユーザー増
通年で多岐にわたる業種や規模の広告主からのニーズによる出稿が拡大

デジタル事業売上高



FOD有料会員数は2022年11月に100万人を突破、以降も増加基調
地上波やTVerとの連動も奏功

サンケイビル（都市開発） 決算のポイント

1. 2024年3月期 決算概要
都市開発・観光

ポイント

増収増益 : 賃貸・販売・売却のいずれも期初見込みを上回る水準で推移し、過去最高益
賃貸 : レジデンス「ルフォンプログレ」シリーズ、オフィス、ホテル「アロフト東京銀座」等が高稼働
販売・売却 : 投資家向け賃貸マンション、オフィス、ホテル等の売却好調

賃貸：増収減益

レジデンス、オフィス、ホテルなど多様なセグメントで
前期・期初想定を上回る賃料と稼働率で推移

住宅等



ルフォンプログレ
神田プレミア

■ルフォンプログレ

2023年竣工の物件他、いずれも高稼働
「ルフォンプログレ神田プレミア」
(71戸：2023年3月竣工)
「ルフォンプログレ大森山王」
(42戸：2023年6月竣工)

■グリッズ

「グリッズプレミアムホテル大阪なんば」等
の稼働率向上による賃料増

オフィス等



大手町サンケイプラザ

■オフィス

通期で大阪「本町サンケイビル」等高稼働
4Qは「大手町サンケイプラザ」等も寄与

■ホテル

「アロフト東京銀座」がインバウンドや
国内の旺盛な観光需要で好調

販売・売却：増収増益

投資家等向けの賃貸マンション、オフィス、物流施設等の販売が好調、
REIT向け各種物件売却も寄与、REITのバリューアップも目指す

住宅等



ルフォンプログレ
天満橋

■新築分譲マンション

「ルフォン松戸北小金」(60戸：ほぼ完売)

■投資家向け賃貸マンション

「ルフォンプログレ天満橋」(65戸)

■ホテル等（REIT向け）

「ホテルインターゲート京都 四条新町」
「グリッズプレミアムホテル大阪なんば」

オフィス等



ホテルインターゲート金沢

■オフィス

「S-GATE FIT 日本橋馬喰町」
敷地面積 609.50 m²
延床面積 4,818.75 m²

■ホテル（REIT向け）

「ホテルインターゲート金沢」
「ベッセルホテルカンパーナすすきの」

グランビスタ ホテル&リゾート（観光）・その他 決算のポイント

1. 2024年3月期 決算概要
都市開発・観光

ポイント

増収増益：ホテル事業好調、海洋レジャー事業堅調 コロナ以前（2019年度）を上回る売上高に
ホテル事業：国内観光需要の拡大とインバウンドの更なる回復で稼働好調

グランビスタ ホテル&リゾート：増収増益

ホテル



札幌グランドホテル

■ 通年で好調

- 国内観光需要の拡大とインバウンドの更なる回復で稼働率、平均単価ともに前期を上回る
- 札幌は、新千歳空港へ国際線の発着がコロナ以前の水準に回復しない中で、客単価・稼働率がいずれも前年を上回って推移、料飲も法人需要を中心に回復基調
- 「インターゲートホテルズ」は、東京・京都・大阪等で国内およびインバウンド需要により、客単価・稼働率共に前期を上回り、順調に推移

（海洋レジャー等） その他



鴨川シーワールド

■ 引き続き堅調

- 「鴨川シーワールド」は、引き続き堅調に推移
- 須磨海浜水族園は、6月の「神戸須磨シーワールド」「神戸須磨シーワールドホテル」としての開業準備中

その他

■ サンケイビルマネジメント

新規物件の受注増加による
管理対象の拡充

原状回復などの建築内装工事業務の
拡大による工事収入の増加

仲介案件成約による仲介手数料収入増

■ サンケイビルウェルケア

入居者や家賃収入の増加等で増収



■ サンケイビルテクノ

建設エンジニアリングで損失あり

都市開発・観光事業 決算概要

1. 2024年3月期 決算概要
都市開発・観光

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比
サンケイビル	67,134	79,380	12,246 (18.2%)	12,669	18,187	5,517 (43.6%)
グランビスタ ホテル&リゾート	24,720	30,475	5,755 (23.3%)	826	2,105	1,279 (154.7%)
その他及び セグメント内 修正等	16,986	18,459	—	1,574	▲756	—

営業利益率		
2022年度 累計	2023年度 累計	増減
18.9%	22.9%	4.0%
3.3%	6.9%	3.6%
—	—	—

■参考：サンケイビルグループ連結事業別内訳（FMHとは連結対象が異なります）

	売上高			営業利益		
	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比	2022年度 累計	2023年度 累計	前期比
賃貸事業	21,545	24,395	2,850	4,534	2,595	▲1,938
販売・売却事業	45,786	59,260	13,473	10,410	18,530	8,120
ホテルリゾート 事業	25,646	33,310	7,664	655	2,134	1,478

営業利益率		
2022年度 累計	2023年度 累計	増減
21.0%	10.6%	▲10.4%
22.7%	31.3%	8.6%
2.6%	6.4%	3.8%

目次

1

2024年3月期 決算概要

2

2025年3月期 通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョンを通じた資本効率向上への取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料

2025年3月期通期 連結業績予想

2. 2025年3月期
通期業績予想

(単位：百万円)

	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期予想	対前期増減	
売上高	566,443	598,300	31,856	5.6%
営業利益	33,519	35,300	1,780	5.3%
経常利益	39,173	40,400	1,226	3.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	37,082	29,000	▲8,082	▲21.8%

【フジテレビ】広告収入の2025年3月通期見込み

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	対前期増減	
ネットタイム	63,551	64,500	949	1.5%
ローカルタイム	10,135	10,000	▲135	▲1.3%
スポット	73,662	74,000	338	0.5%
放送収入合計	147,348	148,500	1,152	0.8%

セグメント別業績予想

2. 2025年3月期
通期業績予想

(単位：百万円)

	事業 セグメント				合計	調整額	連結損益 計算書 計上額
		メ デ ィ ア ・ コ ン テ ン ツ 事 業	都 市 開 発 ・ 観 光 業	そ の 他 業			
売 上 高	2025年3月期 通期予想	434,000	164,500	19,800	618,300	▲20,000	598,300
	2024年3月期 通期実績	433,663	128,316	19,818	581,799	▲15,355	566,443
	増減率	0.1%	28.2%	▲0.1%	6.3%	—	5.6%
営 業 利 益	2025年3月期 通期予想	16,500	20,700	900	38,100	▲2,800	35,300
	2024年3月期 通期実績	15,706	19,537	944	36,187	▲2,667	33,519
	増減率	5.1%	6.0%	▲4.7%	5.3%	—	5.3%

設備投資計画と減価償却費

2. 2025年3月期
通期業績予想

(単位：百万円)

		2024年3月期 通期 (実績)	2025年3月期 通期 (計画)	2026年3月期 通期 (計画)
設備投資額	連 結	110,387	80,000	78,000
	フジテレビ	5,824	8,000	6,000
	都市開発・観光事業	92,090	65,000	65,000
	フジ・メディアHD	1,388	4,500	3,200
減価償却費	連 結	18,437	20,600	21,000
	フジテレビ	5,899	6,500	6,800
	都市開発・観光事業	6,838	8,500	8,600
	フジ・メディアHD	1,883	2,300	2,600

メディア・コンテンツ事業 2025年3月期のトピックス

2. 2025年3月期
メディア・コンテンツ

ポニー キャニオン

アーティスト、アニメへの積極的な投資
と海外展開を通じた収益源の多角化

■方向性

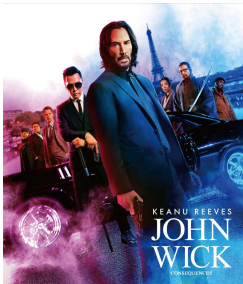
アニメ×音楽のグローバル展開を基軸に、IPとアーティストの
価値の最大化を目指し、中長期の視点で積極的な投資を継続

■クリエイティブ

- ・アニメ作品・既存アーティストへの投資継続
- ・新人アーティストの発掘・育成の強化

■グローバル

- ・アニメ作品の海外販売の強化
- ・アニメタイアップを通じた
自社の楽曲とアーティストの海外展開
- ・海外子会社の機能強化



「ジョン・ウィック：コンセクエンス」
®, TM & © 2022 Lions Gate Entertainment Inc. All Rights Reserved.

DINOS CORPORATION

消費者のニーズの変化を踏まえた
商品開発と販路開拓へ

■方向性

消費行動の変化に対応し、商品開発・販路・販促施策の
抜本的な見直しを行い、業績回復を図る

■商品

ファッション：顧客に寄り添う商品開発と、新規顧客の創出
リビング：商品点数絞り込みによる1点当たりの
売場充実、販売数量の最大化に注力

■販路

テレビ通販：「ディノス限定」新規開発商品の強化
放映・WEB・アプリの連動による集客と売上の拡大
カタログ通販：商品構成、発行規模（部数）等の見直し



ビーエス フジ

BSならではの視聴者層を意識した
編成と広告出稿の取り込みを強化

■方向性

特徴ある視聴者層向けの編成、サブチャンネル等の活用により
広告需要を取り込み、番組の配信展開にも取り組む

■2024年4月改編

「プロ野球レジェン堂」「ゴルフトリプルマッチ」など
BSの視聴者ターゲットを意識した新番組ラインナップ強化

クオラス マーケティング・コミュニケーション 領域でのビジネスを拡大

■方向性

主力のマーケティングビジネスを核にパーパスブランディング、
クリエイティブ制作、IP関連ビジネス、イベントなど事業領域を拡大

■特徴

エンタメを軸としたビジネスプロデュース業務で、顧客との強固な
信頼関係が強い

フジテレビ 2025年3月期のトピックス

2. 2025年3月期
フジテレビ

「番組コンテンツ」の強化に注力、放送と配信の広告収入と共に、
さまざまなコンテンツビジネスで多様な収益を獲得する構造への進化を図る

放送・メディア

タイム
テーブル

2024 年4月 春の改編
「一緒に笑えるだけで、しあわせ」



- レギュラー・単発共に「共視聴」できる編成へ
- レギュラー：木曜日のG帯とニュースを強化
2023年度に改編した週末、水、金曜のG帯視聴率は改善
木曜のG帯、平日夕方の報道、週末のスポーツニュース強化
 - 単発：「五輪」と実績あるバラエティ特番を予定
2Q「パリオリンピック・パラリンピック」
5月「THE SECOND」・7月「27時間テレビ」

放送収入
配信広告収入

放送収入は五輪で単発増、スポット動向注視
配信広告は引き続き成長へ

- 放送収入：
タイム：単発は五輪など予定
スポット：食品、化粧品等の復調、レジャーの復調継続に期待
- 配信広告収入：
地上波の見逃し配信に加え、アーカイブドラマ等も活用し一層のユーザー増を目指すとともに、より幅広い広告主からの更なる出稿拡大を目指す

コンテンツ・ビジネス

映画

劇場公開と
配信権販売の2本柱

- 劇場公開：公開予定作品・公開予定日
「逃走中 THE MOVIE」 7月19日
「スオミの話をしよう」 9月13日
「室井慎次 敗れざる者」 10月11日
「室井慎次 生き続ける者」 11月15日
詳しくは→<https://www.fujimediashd.co.jp/pdf/ydy0TShPHc1dRhbQ.pdf>
- 二次利用
前年度作品などアーカイブを有効に活用



デジタル
(FOD)

アーカイブと地上波連動で
会員数のさらなる増加へ



詳しくは→<https://www.fujimediashd.co.jp/pdf/OzbTKMSSyed72Sfc.pdf>

- FOD：
「#推しドラ SPRING!!
浸れ、超自分的名作。」
キャンペーンで過去作から
最新作までラインアップ
同時にTVerと連動し、
毎月5作品、毎日新たな
エピソードを無料公開する
「#ドラ活」も展開

アニメ

「ちいかわ」人気続く
レギュラー枠の強化



喧嘩独学
©PTJ cartoon company・金正賢/LDF・喧嘩独学製作委員会

- レギュラー：
「ノイタミナ」
「+Ultra」
「B8station」の3枠で
配信PFとも連動し
収益の拡大を目指す

サンケイビル（都市開発） 2025年3月期のトピックス

2. 2025年3月期
サンケイビル

賃貸事業

住宅等



台東二丁目
賃貸レジデンス

好調なルフォンプログレの開発を推進

- 志村坂上賃貸レジデンス計画
78戸：2024年10月竣工予定
- 台東二丁目賃貸レジデンス計画
99戸：2025年1月竣工予定
- 江東区永代一丁目賃貸レジデンス計画
69戸：2025年3月竣工予定

オフィス等



MCUD 小牧北



ブリーゼタワー

- 物流施設「MCUD 小牧北」
2024年4月竣工
敷地面積36,800 m² 延床面積43,700 m²
中部エリアの重要な基幹拠点を担える立地
名神高速・東名高速の起終点である「小牧IC」、東海北陸自動車道「岐阜各務原IC」
2つのIC及び3つの高速道路を利用可能
- 大阪「ブリーゼタワー」オフィス
2024年1月にREITとの資産入替で
持分取得 通期で賃料収入の寄与を期待

分譲



- ルフォン松戸北小金
2023年10月販売開始・60戸
2023年12月下旬より引き渡し開始
JR常磐線「北小金」駅徒歩3分
実際の建物・住戸を確認できる完成後販売



- ルフォン上野松が谷
2024年9月竣工予定・34戸
2024年11月より引き渡し予定
ZEH-M Oriented（ゼッチ・マンション
オリエンテッド）で共用部を含む
マンション全体での一次エネルギー消費^{※1}
を20%以上削減^{※2}することを目指す

※1.住宅で使われている設備機器のエネルギーを熱量に換算した値のこと。冷暖房だけでなく、換気や給湯、照明なども含めた合計の値を一次エネルギー消費量という。

※2.平成28年省エネ基準による「暖房」「冷房」「換気」「照明」「給湯」の基準一次エネルギー消費量との比

投資家向け



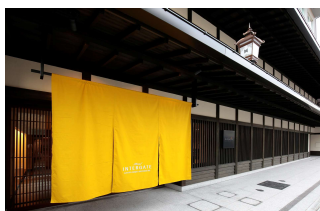
スマイルホテルプレミアム
函館五稜郭

- スマイルホテルプレミアム函館五稜郭
函館市電湯の川線「五稜郭公園前」駅徒歩3分
190室、地上9階
- ルフォンプログレ学芸大学
東急東横線「学芸大学」駅徒歩2分
31戸、地下1階・地上6階建

グランビスタ ホテル&リゾート

ホテル事業は 堅調な観光需要で更に成長へ

- 札幌グランドホテル・札幌パークホテル
国内外観光客による宿泊の一層の伸びと法人等向け料飲売上の回復に期待
- インターゲートホテルズ（HIG）
京都、東京、大阪等の大都市圏を中心に国内観光客とインバウンド観光客の利用の一層の増加が見込まれる
- 銀座グランドホテル
HIG同様に国内外の観光客の利用増が続きRevPERは上昇基調



ホテルインターゲート京都 四条新町



銀座グランドホテル

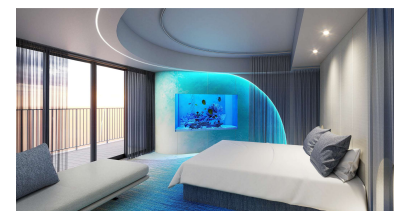
神戸須磨シーワールド・シーワールドホテル 6月1日開業

開発区域101,900㎡の敷地に、水族館、ホテル、にぎわい施設を開業
いよいよ6月1日に全面開業

- 水族館：神戸須磨シーワールド
西日本唯一のシャチの展示、窓越しにシャチを観ながら食事も可能
世界初のシャチに関する教育ゾーン「オルカラボ」「同ホール」設置
- 宿泊：神戸須磨シーワールドホテル（全80室）
日本初、イルカとふれ合える「ドルフィンラグーン」を常設
大型の水槽付プレミアムルームや瀬戸内海の絶景を望むビューバスを備えた特別ルームもあり



神戸須磨シーワールド
ドルフィンホール



神戸須磨シーワールドホテル
「プレミアキングアクア」（水槽付・47㎡）

その他

- サンケイビル
マネジメント
保守清掃事業での新規受注獲得
サンケイビル
保有物件内での入退去等に対応
- サンケイビル
ウェルケア
新規入居者向けに6か月にわたり
作業療法士や柔道整復師など
国家資格保有者が連携してリハビリ



ウェルケアヒルズ馬事公苑

目次

1

2024年3月期 決算概要

2

2025年3月期 通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョンを通じた資本効率向上への取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

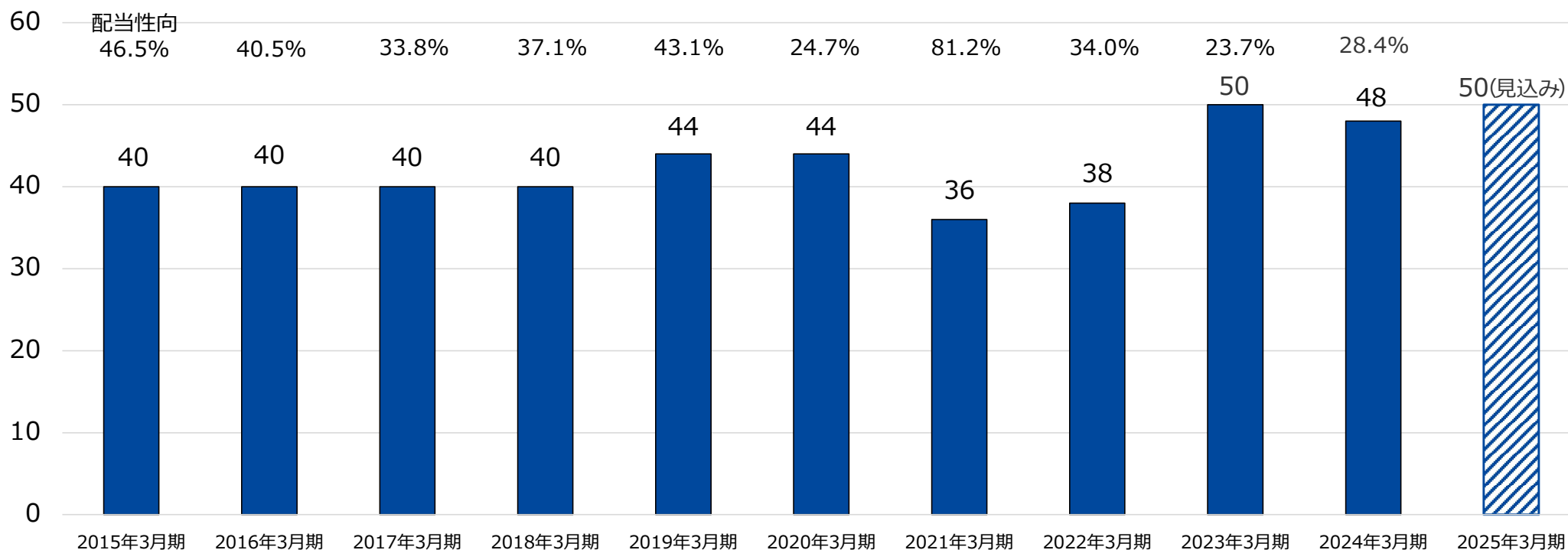
参考資料

株主への利益還元：配当

3.株主への利益還元
配当

方針

■ 2025年3月期 年間配当50円 （見込み・対前期比+2円）
連結ベースの配当性向40%を基本に、配当の安定性等を考慮して決定



※2019年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行10周年及び（株）フジテレビジョン開局60周年記念配当4円が含まれております。
2023年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行15周年及び（株）フジテレビジョン開局65周年記念配当10円が含まれております。
※名義書換を拒否した外国人に対する配当金の支払いについて
当社は2009年3月期より、放送法の規定により議決権割合20%以上となり株主名簿への記載を拒否する外国人に対しても、配当の支払いを行っております。

株主への利益還元：自己株式取得

3.株主への利益還元
自己株式取得

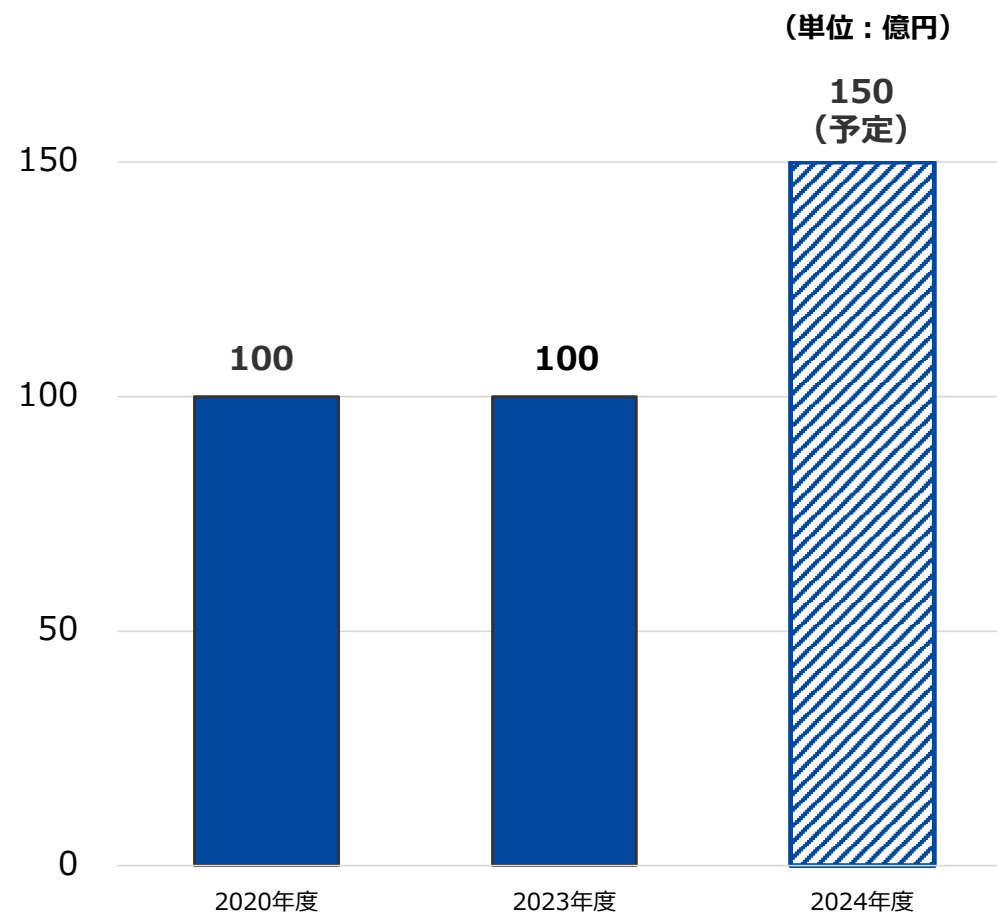
■ 自己株式取得の考え方

機動的な自己株式取得等の資本政策を遂行し
資本効率を高め、株主利益の向上を図る

■ 実績と2024年度の予定

- ・ 2020年度および2023年度で
合計200億円の自己株式取得を実施
- ・ 2024年度も150億円実施予定※

※2024年3月28日発表済



目次

- 1 2024年3月期 決算概要
- 2 2025年3月期 通期業績予想とトピックス
- 3 株主への利益還元
- 4 **中期グループビジョンを通じた資本効率向上への取り組み**
(5月17日 46ページを追加)
- 5 サステナビリティの取り組み
- 6 参考資料

中期グループビジョン 概要（2023年5月公表）

4. 中期グループビジョン
概要

業績目標

「人々が心を潤し、生活を豊かにするすべてのもの」を「コンテンツ」と捉え
一人ひとりの生活スタイルに適ったメディア・販路・提供手段で届けることで
2025年度に連結営業利益400億円を目指す

事業の 方向性

- **メディア・コンテンツ事業**
2025年度営業利益目標：240億円
 - ・生活者との接点の拡大と創出
 - ・コンテンツ制作の体制強化
 - ・コンテンツ強化への投資加速

- **都市開発・観光事業**
2025年度営業利益目標：180億円
 - ・都市開発：アセットタイプの拡大や大規模開発の発掘
 - ・観光：国内観光需要・インバウンド回復の取り込み
 - ・一定の財務規律のもとでの投資の拡大

財務の 方向性

- **成長のための投資を継続・株主還元を重視し資本収益性の向上へ**
 - ・バランスシートの見直しと戦略的活用により、**成長投資を推進**
 - ・安定的な配当の継続と、機動的な自己株取得の検討により、**株主還元をさらに強化**
 - ・成長投資への活用に向け、「政策保有株式」を投下資本の20%以下への減少を目指す
 - ・成長投資等に向け、**連結自己資本比率50%を下限に、外部借入を拡大**
 - ・資本収益性の向上と成長期待・株主還元の推進でPBR上昇を目指す

非財務の 方向性

- **ガバナンス体制の向上・人的資本の強化、サステナビリティの推進**
 - ・経営諮問委員会の設置
 - ・女性管理職比率の向上
 - ・成長戦略実現や新たな価値創造に貢献できる多様な人財の獲得・育成
 - ・2050年のカーボンニュートラル実現を目指す

中期グループビジョン 2023年度の進捗

4. 中期グループビジョン
2023年度の進捗

業績

連結営業利益：335億円

事業の 方向性

■メディア・コンテンツ事業

営業利益：157億円

- ・配信関連ビジネスの成長
(AVOD・SVOD・コンテンツ販売等)
- ・イベント等のリアルビジネスの拡大

■都市開発・観光事業

営業利益：195億円

- ・都市開発：物流施設やホテル等資産の多様化と拡大
- ・観光：国内観光需要・インバウンド回復の取り込み
- ・一定の財務規律のもとでの投資継続

財務の 方向性

■政策保有株式185億円売却、自己株式取得と普通配当8円増配で株主還元拡充、成長投資を継続

- ・成長投資：設備投資を1,103億円実施、都市開発のアセットタイプ多様化等で収益拡大
- ・株主還元：普通配当8円増配、自己株式取得100億円実施、2024年度の150億円の取得を決定
- ・政策保有株式：185億円売却、**投下資本の20%以下にする目標のもと18.1%に（前期比▲2.1%）**
- ・外部借入：サンケイビルがサステナビリティ・リンク・ローンで総額551億円調達
- ・資本収益性：自己資本利益率（ROE）4.4%

非財務の 方向性

■ガバナンス体制の向上・人的資本の強化、サステナビリティの推進

- ・経営諮問委員会：独立社外取締役の委員長のもと、指名・報酬はじめ経営課題を幅広く議論
- ・人財関連：「グループ人権宣言」をリリース、DINOS等が「健康経営優良法人」に選出
- ・温室効果ガス削減：非化石証書の購入により、フジテレビ本社ビル・湾岸スタジオの2023年度電気由来の温室効果ガス排出量（スコープ2）ゼロへ

中期グループビジョン 2024年度の予定

4. 中期グループビジョン
2024年度の予定

業績

連結営業利益目標：353億円

事業の 方向性

■メディア・コンテンツ事業

営業利益目標：165億円

- ・ 広告収入のシェア拡大を目指す
- ・ 配信関連ビジネスの成長
(AVOD・SVOD・コンテンツ販売等)
- ・ ライツ、MDビジネス、イベント等の展開

■都市開発・観光事業

営業利益目標：207億円

- ・ **都市開発**：賃貸、販売・売却の一層の拡大
- ・ **観光**：引き続き旺盛なホテル需要の取り込み
「神戸須磨シーワールド・シーワールドホテル」
開業による収益の更なる拡大

財務の 方向性

■自己株式取得の継続と増配で株主還元をさらに拡充、成長投資も引き続き実施

- ・ 成長投資：都市開発を中心に設備投資を800億円実施予定、アニメ等へのコンテンツ投資
- ・ 株主還元：**前年に続き自己株式取得（150億円：前年比+50億円（3月28日発表済））**
普通配当は2円増配し50円
- ・ 資金調達：政策保有株式の保有意義の見直しを継続、外部借入も有効活用
- ・ 資本収益性：利益水準の向上と資産の有効活用を通じて、ROE・PBR等の上昇を目指す

非財務の 方向性

■サステナビリティの推進、ガバナンス体制の一層の向上

- ・ サステナビリティ：「サステナビリティ委員会」での重要課題の特定、課題解決の取り組み推進
- ・ 人的資本：人材の育成や制度の充実、事業環境の変化に対応した多様な人材の採用や登用など

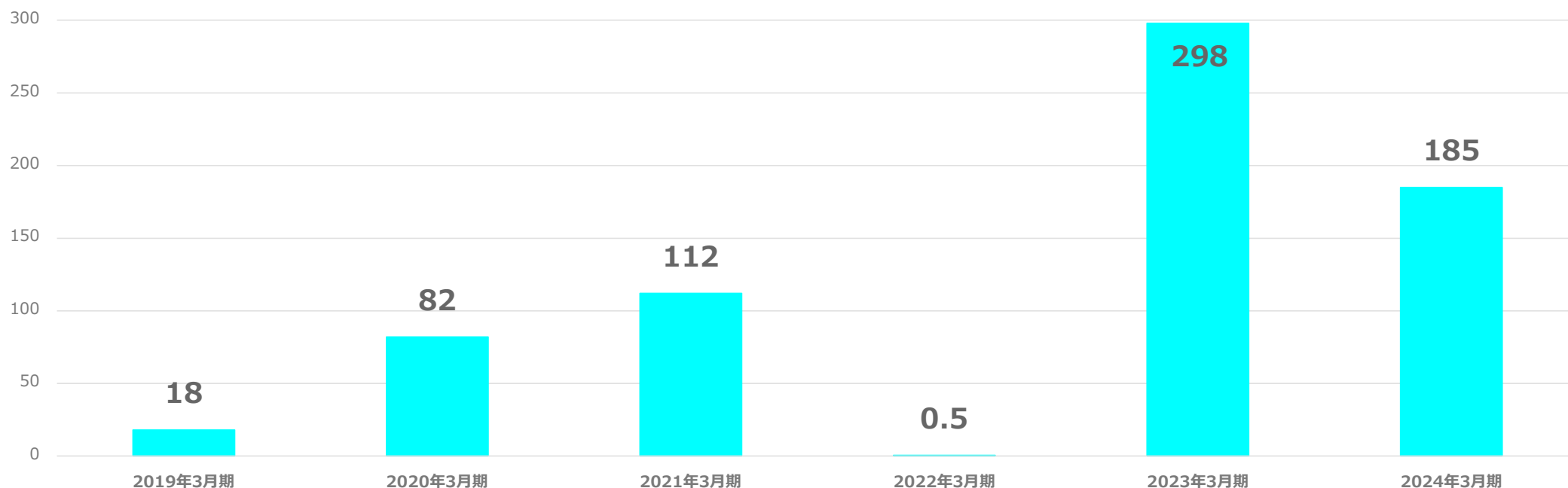
中期グループビジョン 政策保有株式の縮減

4. 中期グループビジョン
政策保有株式

考え方

取締役会において、銘柄ごとに、当社グループとの取引関係や規模、当該企業の業績や配当、株価などの定量的な側面も考慮の上、保有の合理性・必要性を検証
保有意義の希薄化が認められる銘柄等については、縮減の対象として検討
投下資本の20%以下にする目標のもと、2024年3月期には18.1%まで縮減

過去6年間で約700億円の縮減



中期グループビジョン 今後の方針

4. 中期グループビジョン
今後の方針

資本収益性の向上

政策保有株式

成長投資および株主還元の推進に向け、
2030年度までに純資産比20%未満を目標とする

成長投資

外部借入や保有資産の見直し等により
キャッシュを創出し利益を拡大する成長投資を継続

配当

配当は連結ベースの配当性向40%を基本に
安定性等を考慮して決定

自己株式取得

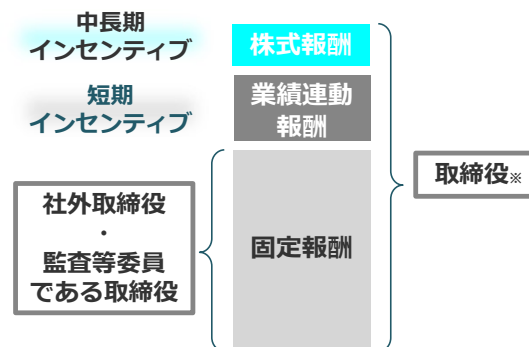
前期・今期に続き来期以降も
自己株式取得の継続的な実施を検討

ガバナンス

役員報酬

取締役に対し譲渡制限付株式報酬を導入（2024年6月）
目的：株主との一層の価値共有を進め、
グループの企業価値の持続的な向上を
図るためのインセンティブを付与
譲渡制限期間：退任時まで

ROE 5 %以上を
目指す



※社外取締役・監査等委員である取締役を除く

目次

- 1 2024年3月期 決算概要
- 2 2025年3月期 通期業績予想とトピックス
- 3 株主への利益還元
- 4 中期グループビジョンを通じた資本効率向上への取り組み
- 5 **サステナビリティの取り組み**
- 6 参考資料

サステナビリティの取り組み 人的資本

5.サステナビリティ 取り組み

フジテレビ
ポニーキャニオン
DINOS
CORPORATION

健康経営優良法人
2024
(大規模法人部門)
認定

■フジテレビは初、ポニーキャニオンは2年連続、DINOSは5年連続

経済産業省及び日本健康会議が共同で実施する健康経営優良法人認定制度で「健康経営優良法人2024（大規模法人部門）」※に認定



□フジテレビ

2021年に「ワークスタイル・イノベーション」プロジェクトによる働き方改革を開始
2023年3月に民放キー局初「男性育休100%宣言」に賛同、10月「健康経営宣言」を発表
健康施策の一層の充実を図り、社員・スタッフが心身ともに健康で活躍できるように
若手社員の面談、復職支援、完全テレワークによる病休者支援、不妊治療サポートなど整備

□ポニーキャニオン

「ポニーキャニオン健康経営宣言」のもと、2023年8月に＜ポニーキャニオン健康月間＞
を設定するなど、従業員の健康維持・増進のための、健康セミナーや部署対抗エクササイズ
企画をはじめ、様々なイベントを継続的に実施

□DINOS CORPORATION

“これからの社会・創りたい未来”の姿として実現を目指す「サステナビリティビジョン 2030」
の重点領域のひとつ「健やかさを広げる」において、「健康経営」を重要テーマと位置付け
「健康経営宣言」のもと、前年度はピンクリボン月間における社内啓発イベントの開催
(ポニーキャニオンとの共催)、メンタル不調者への復職プログラムの作成、ライン管理職
へのメンタルヘルス研修等、様々な取り組みを実施

※特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者 関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として、社会的に評価を受けることができる 環境を整備することを目的としている。

サステナビリティの取り組み 人的資本・ガバナンス

5.サステナビリティ 取り組み

フジテレビ

令和5年度
がん対策推進
優良企業表彰

■令和2年度に続いて2回目の表彰

厚生労働省が推進する「がん対策推進企業アクション」における「令和5年度 がん対策推進優良企業」として表彰

2009年より「がん対策推進企業アクション」の推進パートナー企業
2023年度は大腸がん検診および乳がん・子宮頸がんなどの婦人科検診の受診率向上、がん教育などの施策が評価され、表彰に至る
その他、がん治療中の社員の復職支援、働きやすさに配慮した柔軟なテレワーク制度など、さまざまな施策を実施



取締役会

■幅広いテーマに関して議論、意思決定

「中期グループビジョン」、政策保有株式の意義の見直しや売却、自己株式取得、各種リスク、「グループ人権方針」など、会社の業務執行に関する多岐にわたる内容を議論

経営諮問委員会

■コーポレートガバナンス体制の充実を目指す

独立社外取締役の委員長のもと、経営課題全般、取締役の選任や報酬、その他取締役会が必要と認めた事項等について、取締役会の諮問に応じて協議、助言・提言を実施

統合報告書 発行

■財務情報と非財務情報をひとつに

既存の有価証券報告書、決算短信、決算説明資料、ホームページ、サステナビリティレポート、TCFD 提言に基づく情報開示等を一つに整理



目次

- 1 2024年3月期 決算概要
- 2 2025年3月期 通期業績予想とトピックス
- 3 株主への利益還元
- 4 中期グループビジョンを通じた資本効率向上への取り組み
- 5 サステナビリティの取り組み
- 6 参考資料

財務業績推移

(金額単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高	631,482	519,941	525,087	535,641	566,443
営業利益	26,341	16,274	33,338	31,401	33,519
親会社株主に帰属する 当期純利益	41,307	10,112	24,879	46,855	37,082
売上高当期純利益率	6.5%	1.9%	4.7%	8.7%	6.5%

有利子負債	247,915	288,403	272,148	276,900	324,760
純資産	745,574	784,429	808,788	848,769	869,628
投下資本（有利子負債＋純資産）	993,490	1,072,833	1,080,937	1,125,670	1,194,389
総資産	1,254,613	1,336,042	1,335,991	1,382,646	1,448,833

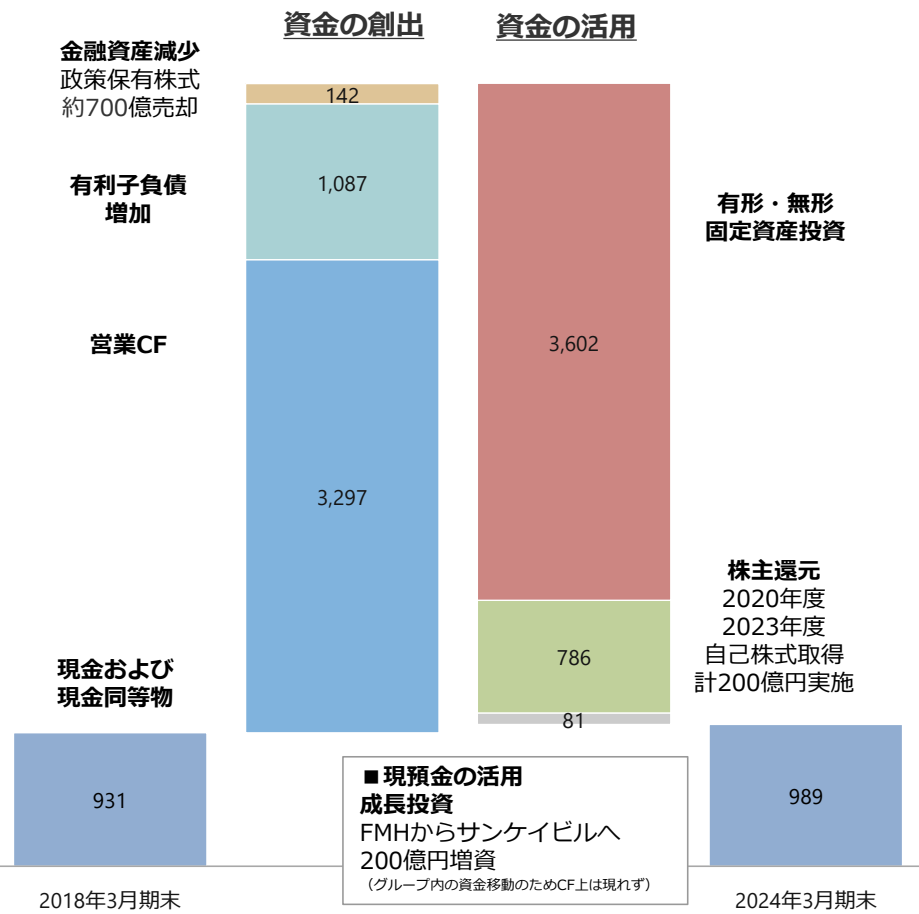
政策保有株式（F M H）	173,095	233,466	236,808	227,445	216,356
対投下資本割合	17.42%	21.76%	21.91%	20.21%	18.11%
対純資産割合	23.22%	29.76%	29.28%	26.80%	24.88%

自己資本比率	58.6%	57.9%	59.7%	60.6%	59.2%
総資産当期純利益率	3.2%	0.8%	1.9%	3.4%	2.6%
自己資本当期純利益率	5.6%	1.3%	3.2%	5.7%	4.4%
株価収益率	6.0	30.6	10.5	5.7	11.7
株価純資産倍率	0.34	0.39	0.33	0.32	0.50

資金の活用状況と設備投資実績

6. 参考資料
資金の活用状況と
設備投資実績

■ 直近6年の資金の活用状況



■ 設備投資実績

(単位：億円)

	メディア・コンテンツ	都市開発	その他
19年3月期	本社ビル土地（底地）取得 放送機材の取得 スタジオ設備・ 物流関連設備の改修・更新242	オフィスビル、ホテル及び シニア施設開発用地の取得464	事務用機器などの リース資産の取得6
20年3月期	放送機材の取得 スタジオ設備の更新 中継車等のリース資産の取得132	ホテル、オフィスビル及び シニア施設の取得247	事務用機器などの リース資産の取得5
21年3月期	編集用設備の更新 放送機材の取得 スタジオ設備の更新60	オフィスビル建設、賃貸物件 及びホテルの開発用地取得359	事務用機器などの リース資産の取得2
22年3月期	スタジオ設備・ 放送用回線設備の更新 放送機材の取得55	オフィスビル建設や 賃貸物件開発用地の取得320	事務用機器などの リース資産の取得2
23年3月期	スタジオ設備の更新 放送機材の取得57	オフィスビルや 賃貸レジデンス の開発用地等の取得450	事務用機器などの リース資産の取得5
24年3月期	スタジオ設備の更新 放送機材の取得68	オフィスビルや 賃貸レジデンス の開発用地等の取得914	事務用機器などの リース資産の取得3
合計	614	2,754	23

*有価証券報告書の「設備投資等の概要」等から引用した数値であり、
キャッシュフロー計算書上の有形・無形固定資産投資の数値とは異なります。

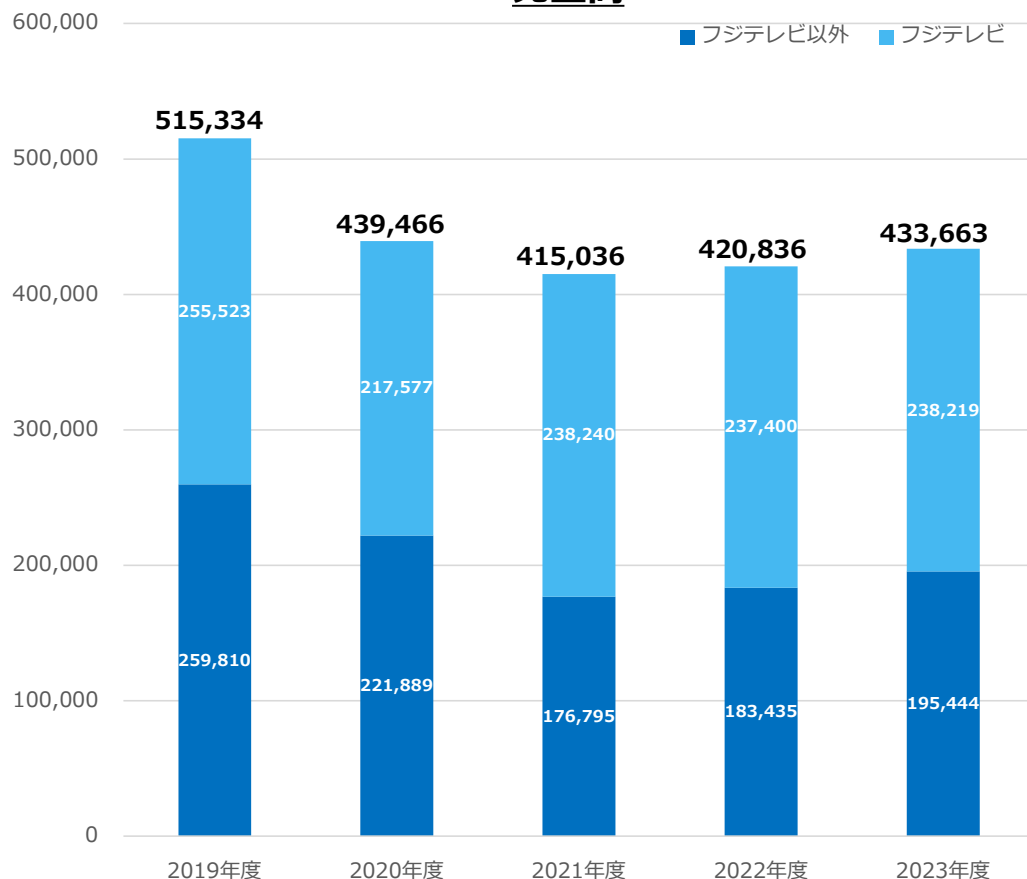
セグメント情報（連結子会社）

セグメント	会 社 名	会 社 数
メディア・コンテンツ	フジテレビジョン、ビーエスフジ、ニッポン放送、仙台放送、 フジクリエイティブコーポレーション、共同テレビジョン、ポニーキャニオン、 フジパシフィックミュージック、DINOS CORPORATION、クオラス、扶桑社、NEXTEP、 フジアール、フジ・メディア・テクノロジー、共同エディット、バスク、バンエイト、 ベイシス、フジ・ミュージックパートナーズ、 シンコーミュージック・パブリッシャーズ、グレイプ、イミ二免疫薬粧、 FUJI MUSIC GROUP, INC.、ARC/CONRAD MUSIC LLC	24社
都市開発・観光	サンケイビル、グランビスタ ホテル&リゾート、 サンケイビルマネジメント、サンケイビルテクノ、サンケイビルウェルケア、 サンケイ会館、サンケイビル・アセットマネジメント、 SKB USA LLC、SKB PORTLAND LLC	9社
その他	フジミック、ニッポン放送プロジェクト、フジキャリアデザイン、 FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	4社
合計		37社

メディア・コンテンツ事業 業績推移

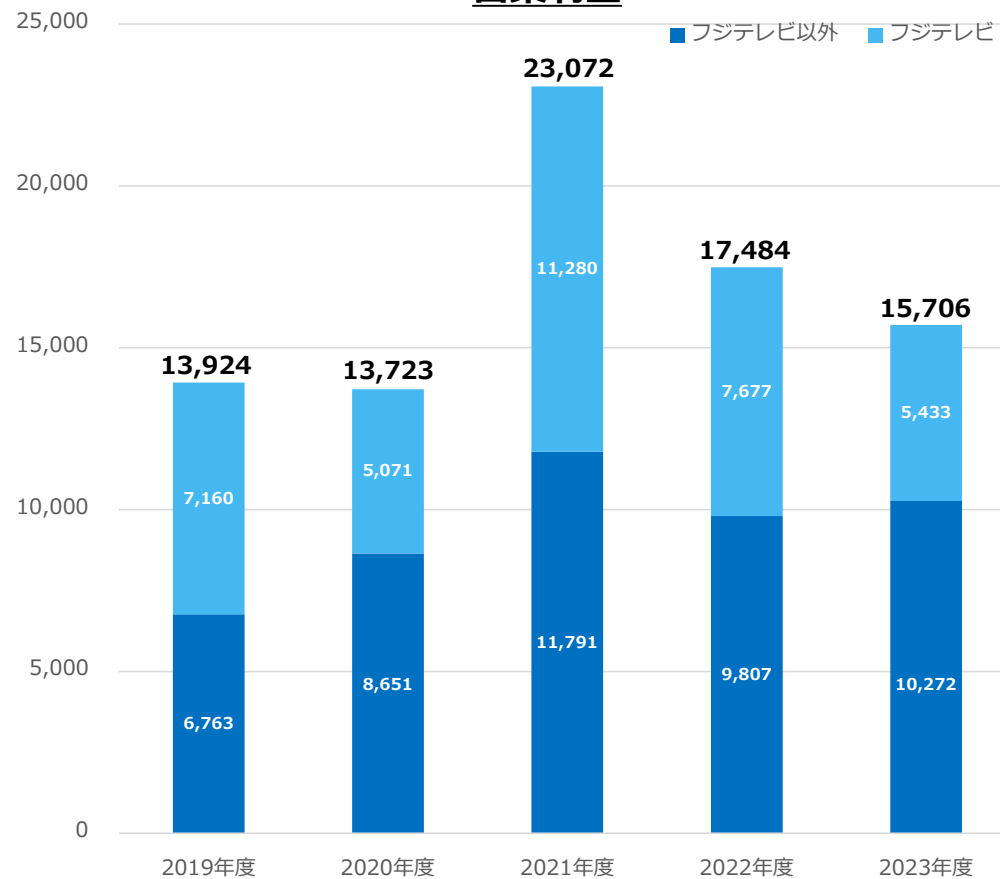
■メディア・コンテンツ事業の内訳の推移 (単位：百万円)

売上高



※フジテレビ以外はセグメント売上とフジテレビ売上の差額。セグメント内調整を含む。

営業利益

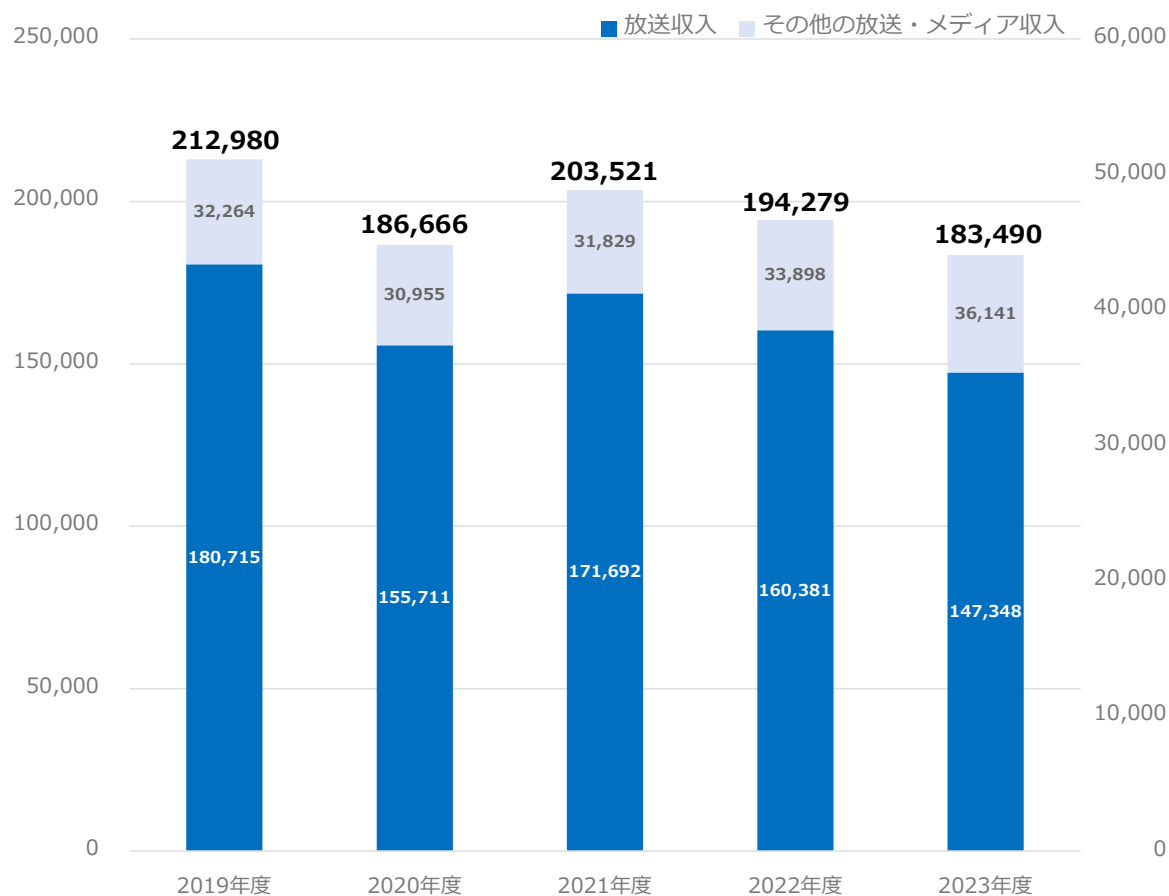


※フジテレビ以外はセグメント営業利益とフジテレビ営業利益の差額。セグメント内調整を含む。

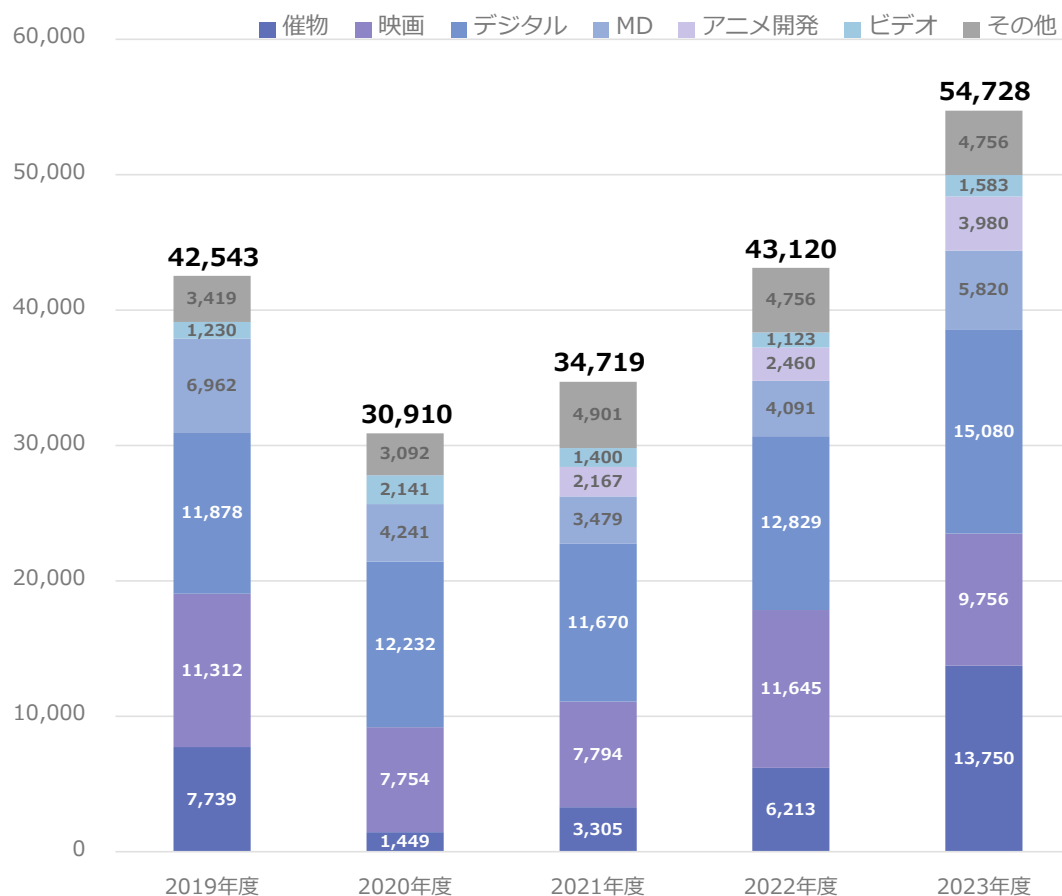
フジテレビ 業績推移

6. 参考資料
フジテレビ

■放送・メディア収入の売上内訳推移（単位：百万円）



■コンテンツ・ビジネス収入の売上内訳推移（単位：百万円）



フジテレビ 放送・メディア 推移

6. 参考資料
フジテレビ

■ 広告収入

(単位：百万円・%)

	2022年度				2023年度				対前期比増減				対前期比増減率			
	ネット	ローカル	スポット	合計	ネット	ローカル	スポット	合計	ネット	ローカル	スポット	合計	ネット	ローカル	スポット	合計
1Q	16,042	2,682	21,301	40,026	15,411	2,354	18,377	36,142	▲631	▲327	▲2,924	▲3,883	96.1%	87.8%	86.3%	90.3%
2Q	16,721	2,533	17,831	37,086	16,325	2,451	15,820	34,598	▲395	▲81	▲2,011	▲2,488	97.6%	96.8%	88.7%	93.3%
上期	32,764	5,215	39,133	77,113	31,737	4,806	34,197	70,741	▲1,026	▲409	▲4,935	▲6,372	96.9%	92.1%	87.4%	91.7%
3Q	20,221	2,807	21,033	44,061	16,396	2,706	19,980	39,083	▲3,825	▲100	▲1,052	▲4,978	81.1%	96.4%	95.0%	88.7%
4Q	16,267	2,598	20,339	39,205	15,418	2,622	19,484	37,524	▲849	23	▲855	▲1,681	94.8%	100.9%	95.8%	95.7%
下期	36,489	5,405	41,372	83,267	31,814	5,329	39,464	76,607	▲4,674	▲76	▲1,908	▲6,659	87.2%	98.6%	95.4%	92.0%
通期	69,253	10,621	80,506	160,381	63,551	10,135	73,662	147,348	▲5,701	▲486	▲6,844	▲13,032	91.8%	95.4%	91.5%	91.9%

■ 視聴率

* ビデオリサーチ調べ ・関東地区：ゴールデン：19時～22時 ・プライム：19時～23時 ・全日：6時～24時 ・個人、個人全体：4歳以上 ・コア、コアターゲット：13歳～49歳

(単位：%)

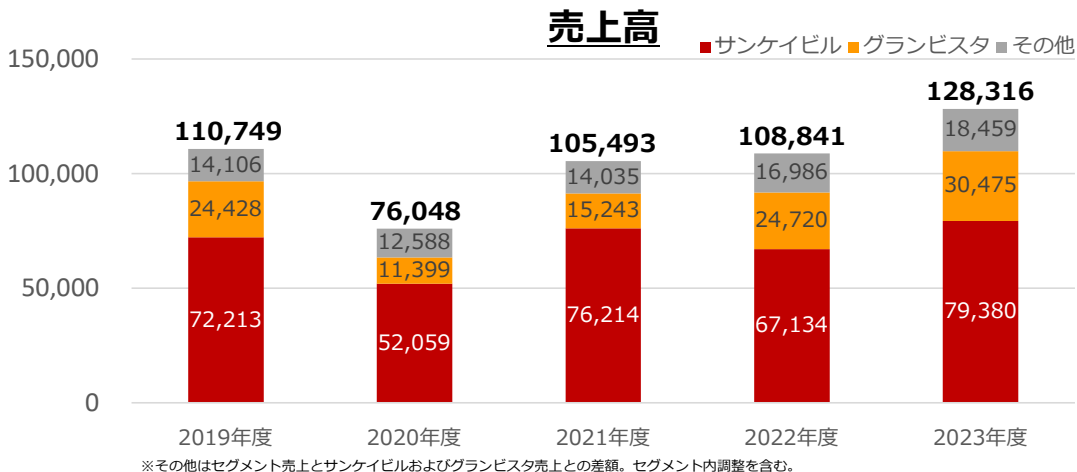
4Q 2024年1月1日～3月31日	ゴールデン		プライム		全日	
	個人	コア	個人	コア	個人	コア
フジテレビ	3.4	2.9	3.3	2.8	2.3	1.7
日本テレビ	5.7	4.6	5.4	4.4	3.7	2.7
テレビ朝日	5.7	2.6	5.6	2.6	3.7	1.3
TBSテレビ	4.3	3.1	4.2	3.1	2.8	1.6
テレビ東京	3.3	1.5	2.9	1.4	1.3	0.5
PUT	31.5	17.3	29.5	16.7	19.2	9.5

2023年度 2023年4月3日～ 2024年3月31日	ゴールデン		プライム		全日	
	個人	コア	個人	コア	個人	コア
フジテレビ	3.6	2.9	3.5	2.8	2.3	1.7
日本テレビ	5.6	4.5	5.2	4.3	3.5	2.6
テレビ朝日	5.3	2.4	5.3	2.4	3.5	1.3
TBSテレビ	4.2	3.0	4.1	3.0	2.7	1.5
テレビ東京	3.1	1.4	2.7	1.3	1.2	0.5
PUT	31.1	17.1	29.1	16.5	18.8	9.3

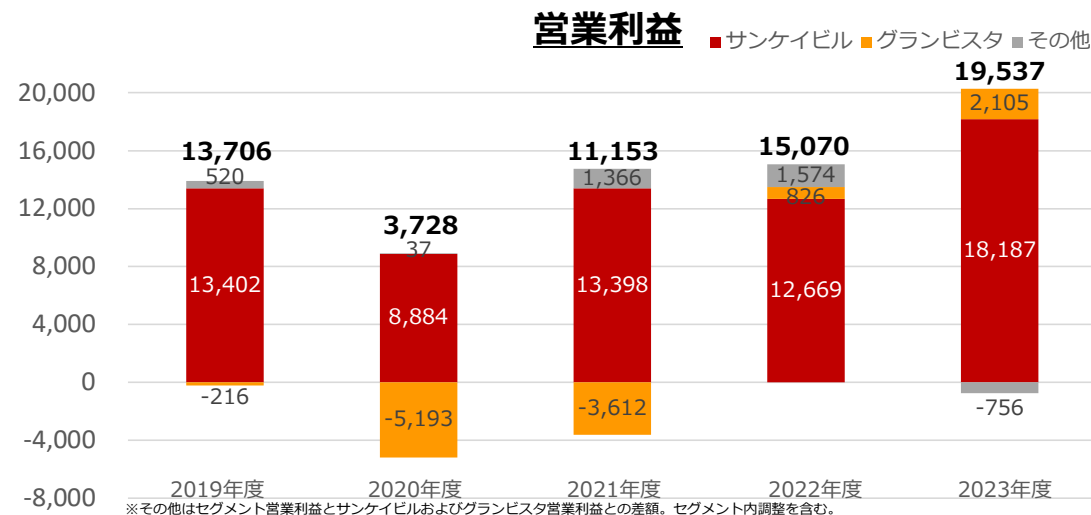
都市開発・観光事業 業績推移

6. 参考資料
都市開発・観光

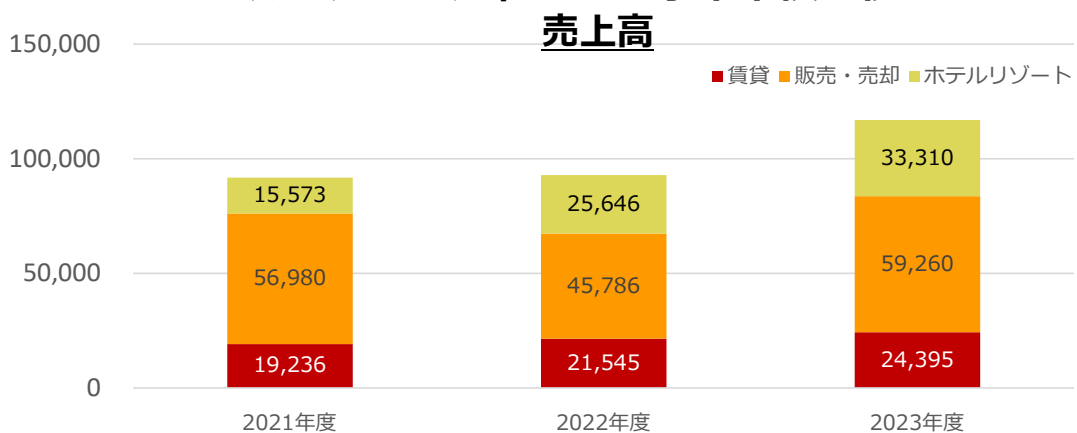
■ 企業等別の業績推移（単位：百万円）



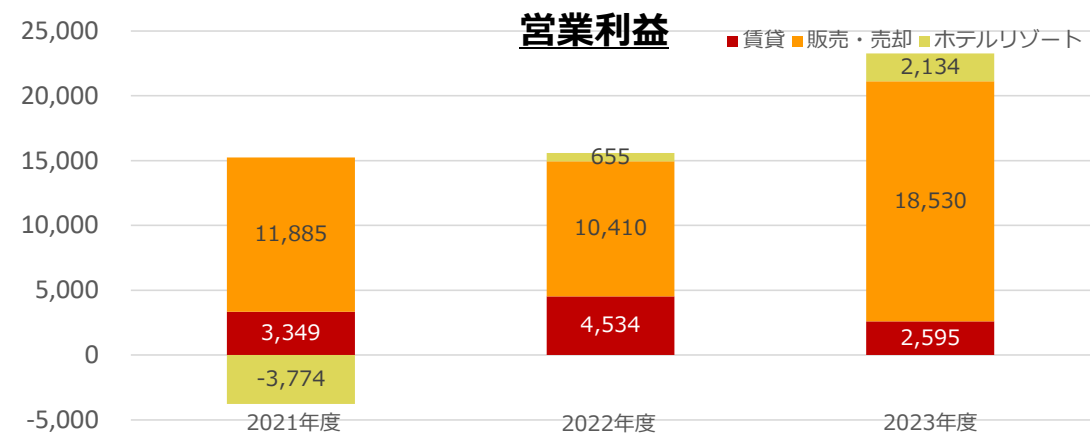
営業利益



■ サンケイビルグループ連結の主要事業業績推移（単位：百万円）



営業利益



第4四半期（2024年1月～3月）連結 決算概要

6.参考資料
2024年3月期 4Q決算概要
連結

(単位：百万円)

	2022年度 4Q	2023年度 4Q	対前期増減	
売上高	150,079	156,392	6,312	4.2%
営業利益	8,961	9,918	956	10.7%
経常利益	10,195	10,786	590	5.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26,123	17,826	▲8,297	▲31.8%

セグメント別 売上高及び営業利益

6.参考資料
2024年3月期 4Q決算概要
連結

(単位：百万円)

	事業セグメント				計	調 整 額	連 結 損 益 計 算 上 額
		メ デ ィ ア ・ コ ン テ ン ツ 事 業	都 市 開 発 ・ 観 光 業	そ の 他 業			
売上高	2023年度4Q	108,139	47,354	4,638	160,132	▲3,740	156,392
	2022年度4Q	110,040	38,579	5,099	153,718	▲3,638	150,079
	増 減	▲1,900	8,774	▲460	6,413	▲101	6,312
	増減 (%)	▲1.7%	22.7%	▲9.0%	4.2%	—	4.2%
営業利益	2023年度4Q	3,865	6,873	88	10,827	▲909	9,918
	2022年度4Q	4,265	5,347	154	9,767	▲805	8,961
	増 減	▲399	1,525	▲65	1,060	▲104	956
	増減 (%)	▲9.4%	28.5%	▲42.6%	10.9%	—	10.7%
営業 利益率	2023年度4Q	3.6%	14.5%	1.9%	6.8%	—	6.3%
	2022年度4Q	3.9%	13.9%	3.0%	6.4%	—	6.0%

フジテレビ (2024年1月~3月) 決算概要

6. 参考資料
2024年3月期 4Q決算概要
フジテレビ

(単位：百万円)

	2022年度 4Q	2023年度 4Q	対前期増減	
売上高	60,914	58,548	▲2,366	▲3.9%
営業利益	1,403	1,093	▲310	▲22.1%
経常利益	1,467	1,090	▲376	▲25.6%
四半期純利益	1,359	717	▲641	▲47.2%

放送・メディア 収入と原価

6. 参考資料
2024年3月期 4Q決算概要
フジテレビ

(単位：百万円)

	2022年度 4Q	2023年度 4Q	対前期増減	
放 送 ・ メ デ ィ ア 収 入	47,731	47,419	▲311	▲0.7%
放送収入	39,205	37,524	▲1,681	▲4.3%
ネットタイム	16,267	15,418	▲849	▲5.2%
ローカルタイム	2,598	2,622	23	0.9%
スポット	20,339	19,484	▲855	▲4.2%
その他の放送・メディア収入	8,525	9,894	1,369	16.1%
配信広告	1,224	2,608	1,384	113.0%
番組販売	3,896	3,902	5	0.1%
CS放送・その他	3,404	3,384	▲20	▲0.6%
放 送 ・ メ デ ィ ア 原 価	34,535	33,944	▲591	▲1.7%
放 送 ・ メ デ ィ ア 粗 利 益	13,196	13,475	279	2.1%

コンテンツ・ビジネス 収入と原価

6. 参考資料
2024年3月期 4Q決算概要
フジテレビ

(単位：百万円)

	2022年度 4Q	2023年度 4Q	対前期増減	
コンテンツ・ビジネス収入	13,183	11,129	▲2,054	▲15.6%
催物事業収入	2,597	1,559	▲1,038	▲40.0%
映画事業収入	3,023	1,550	▲1,472	▲48.7%
デジタル事業収入	3,885	4,416	530	13.7%
MD事業収入	1,584	1,121	▲462	▲29.2%
アニメ開発事業収入	779	1,159	380	48.8%
ビデオ事業収入	273	301	27	10.0%
その他の収入	1,038	1,020	▲18	▲1.8%
コンテンツ・ビジネス原価	9,525	8,167	▲1,357	▲14.3%
コンテンツ・ビジネス粗利益	3,657	2,961	▲696	▲19.0%

スポット収入 業種別動向

4Qに入り「医薬品・医療用品」「エネルギー・機械」が復調
通年で「交通・レジャー・観光」と
3Qに続き「食品」「アルコール」が前年超え

業種	2022年度 4Qシェア	2023年度 4Qシェア	対前期増減
情報・通信・放送	17.5%	17.8%	▲3.5%
外食・各種サービス	10.6%	9.7%	▲13.5%
食品	5.9%	7.8%	25.1%
化粧品・トイレタリー	6.9%	7.0%	▲4.3%
金融・保険	7.7%	7.0%	▲14.2%
交通・レジャー・観光	4.8%	6.4%	24.7%
不動産・住宅設備	6.5%	6.3%	▲7.6%
自動車・関連品	5.1%	5.0%	▲7.4%
医薬品・医療用品	4.7%	5.0%	1.1%

(2024年1月～2024年3月) ※管理ベース

業種	2022年度 4Qシェア	2023年度 4Qシェア	対前期増減
アルコール飲料	2.4%	4.1%	60.8%
非アルコール飲料	4.0%	3.9%	▲6.6%
出版・エンタテインメント	5.5%	3.9%	▲33.9%
流通・小売業	3.8%	3.6%	▲10.5%
事務・精密・光学機器	2.9%	3.1%	▲0.6%
衣料・身回品・雑貨	2.8%	2.6%	▲12.4%
電話サービス	2.4%	2.1%	▲15.5%
エネルギー・機械	1.2%	1.7%	40.4%
家電・AV機器	1.1%	0.9%	▲23.5%
その他	4.1%	1.9%	▲56.1%

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値等、将来に関する記述が含まれている場合があります。実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

【HP】

2023年10月17日にリニューアルしました
<https://www.fujimediahd.co.jp/>

【統合報告書】

2024年3月29日にリリースしました
<https://www.fujimediahd.co.jp/ir/integrated.html>



© FUJI MEDIA HOLDINGS, INC. All Rights Reserved.